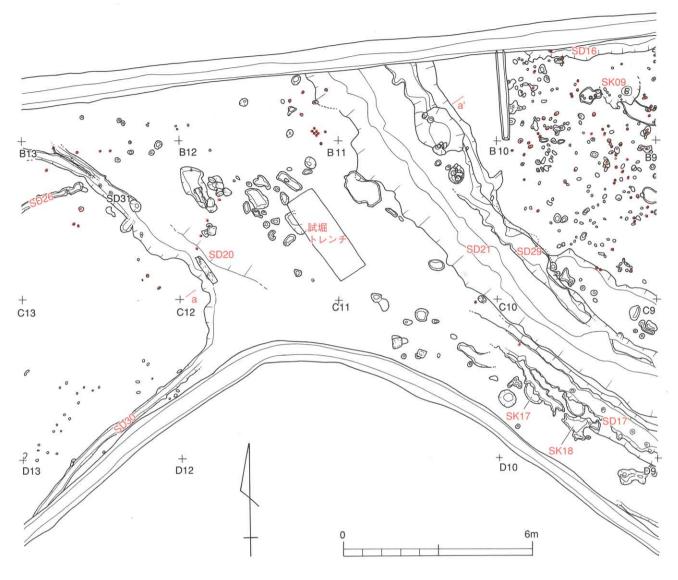


がりは、東側で外反 気味に立ち上がり、 西側で内湾しながら 立ち上がる。

第124図1は縄文 土器である。内外面 ともに2枚貝条痕を 施し、口縁部は外方 に直線的に立ち上が り外傾する。端部は 丸く仕上げ刻目文を 施している。断面に 粘土の繋目痕を残す。 2~4は弥生土器甕 である。2は内面に ヘラケズリ調整を施 し、外面にはヘラミ ガキ調整を施してい る。立ち上がりは外 反気味に立ち上がる。 3~4は複合口縁を 呈する口縁部は、外 反しながら立ち上が り、端部を丸く仕上 げている。3は口縁 部内外面及び頸部外 面にナデ調整を施し、 頸部内面にはヘラケ ズリ調整を施す。口 縁部外面に9条以上 の擬凹線を施してい る。4は口縁部及び 頸部内外面にナデ調 整を施し、体部内面 にヘラケズリ調整を 施す。口縁部外面に



第109図 Ⅱ区平面図1(S=1/120)



第110図 I区平面図2(S=1/120)

8条の擬凹線を施している。

## <SK 02 > (第 123、125 図)

東西  $1.38\,\mathrm{m}$ 、南北  $2.86\,\mathrm{m}$ 、深さ  $0.36\,\mathrm{m}$ の土壙で、SD  $11\,\mathrm{k}$  の切り合い関係から、SD  $11\,\mathrm{k}$  り新しい遺構と考えられる。壁の立ち上がりは南側で外方に直線的に立ち上がり、北側で内湾しながら立ち上がる。

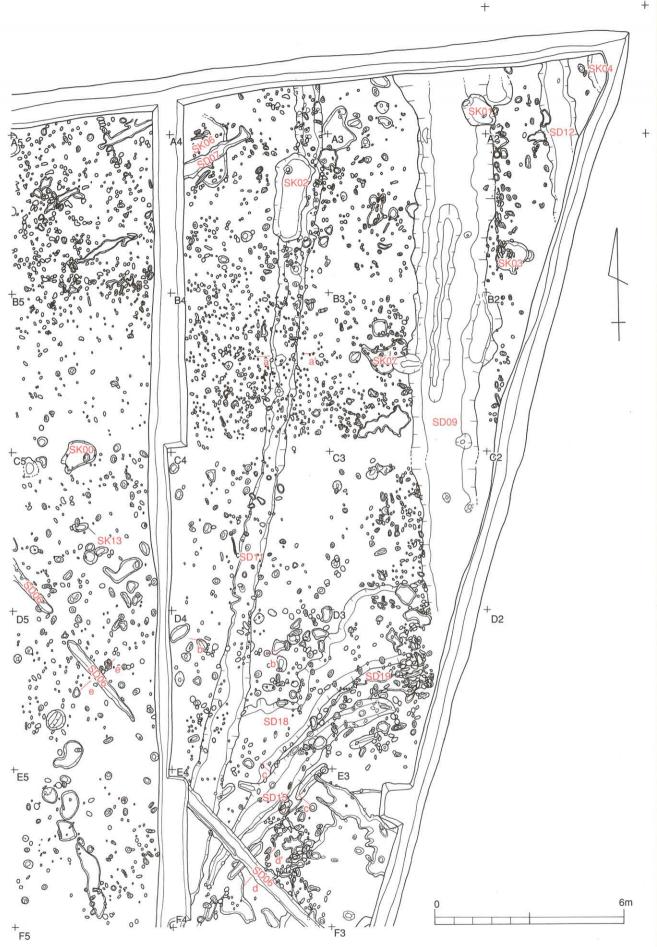
第125 図1 は弥生土器甕で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は内傾しながら立ち上がり、端部は肥厚させ平坦面を作る。2~3 は土師器である。2 は直口壺で、口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3 は坏で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を尖らせている。

## <SD 11 > (第 112 ~ 114、196 図)

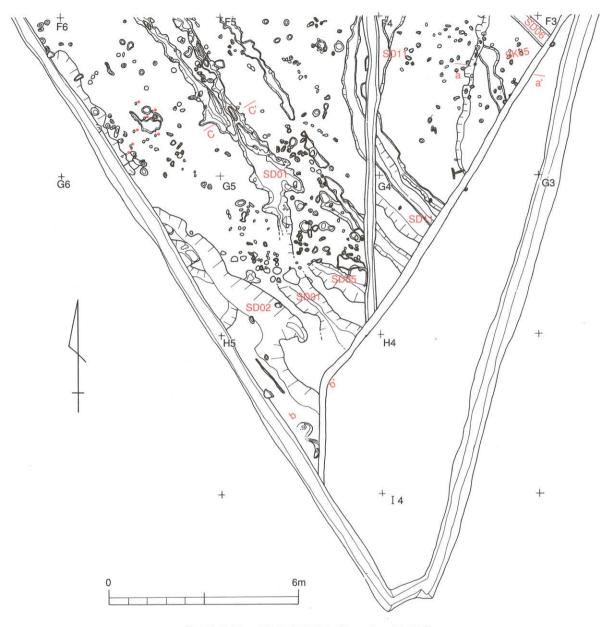
調査区を南北に巡る溝状遺構で、調査区南側で東に折れている。溝の規模は幅約 0.8 m、深さ 0.15 mを測る。遺構の掘り込み面は⑤層上面で、切り合い関係からSK 02 より古い遺構と考えられる。



第111図 II区平面図3(S=1/120)



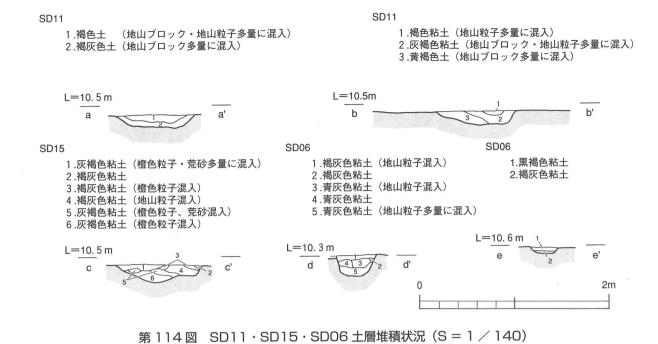
第112図 Ⅱ区平面図4(S=1/120)

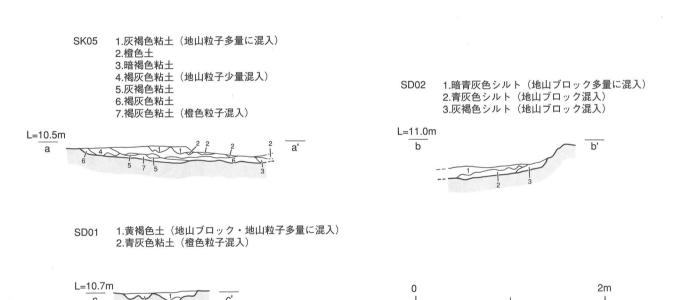


第113図 Ⅱ区平面図5(S=1/120)

壁の立ち上がりは、東西ともに外反気味に立ち上がる。

第126図1~4は縄文土器である。1は内面にナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げる。口縁部外面に刻目突帯を貼付している。2は口縁部は内側に直線的に立ち上がり、口縁部外面に突帯を貼付している。3は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部に刻目文を施す。4は外面にナデ調整を施す。口縁部は内側に内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部外面には突帯を貼付している。5~10は弥生土器で、5は口縁部は内湾気味に立ち上がり外傾する。端部を丸く仕上げている。6~7、9は甕の底部である。6は内外面ともにナデ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。7は内湾気味に立ち上がる。9は外面にナデ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。8は器台底部で、内面にヘラケズリ調整、外面にナデ調整を施す。複合口縁状に作られた脚台部は内湾気味に広がり、



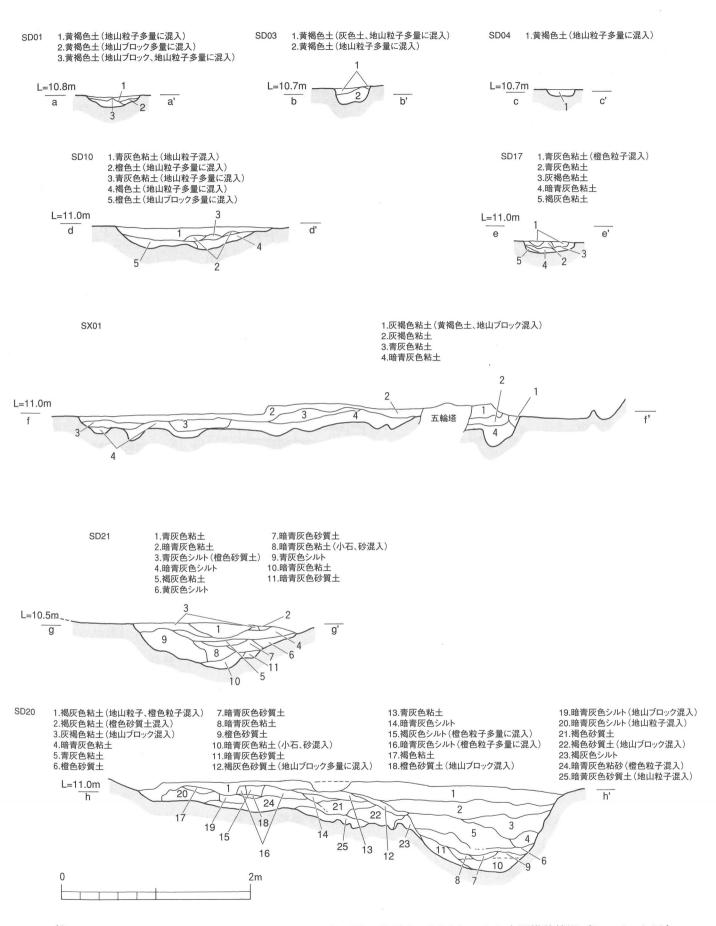


第 115 図 SK05·SD02·SD01 土層堆積状況 (S = 1 / 40)

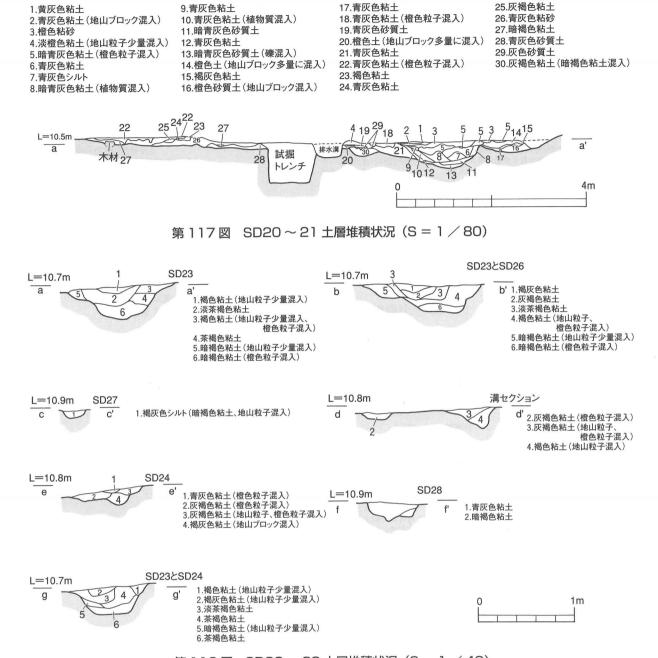
端部を尖り気味に仕上げている。脚台部外面には 10条以上の擬凹線が施されている。10 は内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。口縁部外面に 1条の凹線が施されている。11 は土師器甕の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部に平坦気味に仕上げている。12 は須恵器甕で、内面に青海波、外面に平行タタキの後カキ目調整を施す。13 は石斧である。

#### <SK 06 > (第 112、120 図)

東西 1.26 m以上、南北 2.23 m以上、深さ約 0.1 mの土壙で、SD 07 との切り合い関係から、SD 07 より新しい遺構と考えられる。



第116 図 SD01·SD03·SD04·SD10·SD17·SX01·SD20~22 土層堆積状況 (S = 1 / 40)



第 1 1 8 図 SD23 ~ 28 土層堆積状況 (S = 1 / 40)

第 127 図 1 は縄文土器で、内面に二枚貝条痕を施し、外面には突帯を貼付しナデ調整を施す。 <SD 06 > (第 111 ~ 114、128 図)

北西から南東方向に直線的に伸びる溝状遺構で、幅 0.3 m、深さ 0.25 mを測る。遺構の掘り込み面は④層上面で、壁の立ち上がりは、東西ともに外方に直線的に立ち上がる。

第128 図1~3 は弥生土器である。1 は甕で、外面にナデ調整を施す。口縁部は外側に水平に開き、端部を平坦気味に仕上げている。体部外面に7条のヘラ描き直線文を施す。2 は壺の体部で、外面にナデ調整を施す。内面は風化が著しいが指頭圧痕が残る。3~5 は須恵器である。3 は須恵器甕の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、外側に折り込んでいる。端部は平坦気味に仕上げている。4 は高坏の脚部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。裾部

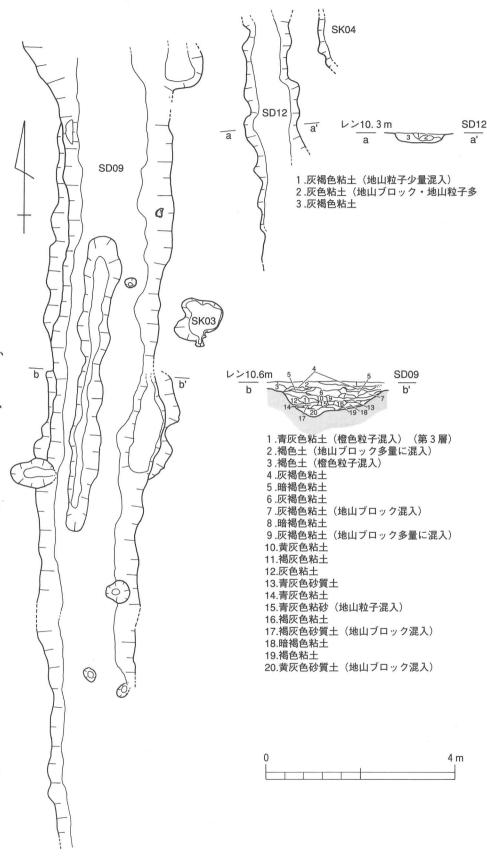
の広がりは外方に直線 的に広がり外傾する。 端部は平坦気味に仕上 げている。5は皿の口 縁部で、内外面ともに 回転ナデ調整を施す。 口縁部は口唇部で外傾 し、端部を尖り気味に 仕上げている。

<SD 15、SD 19 > (第112、114、129図)

北東から南方向に伸びる溝状遺構で、SD 19をSD 15がほぼ同じルートで切っている。 SD 15 は横幅約 0.45 m、深さ約 0.1 mを測り、SD 19 は横幅 0.6 m以上、深さ約 0.1 mを測る。

## $\langle SD 02 \rangle$

(第 113、115、130 図) 北西から南東方向に



第 119 図 SD09·SD12·SK04·SK03 遺構実測図 (S=1 / 80)

かけて伸びる 溝状遺構で、 方向からSD 21 と繋がる

上がる。

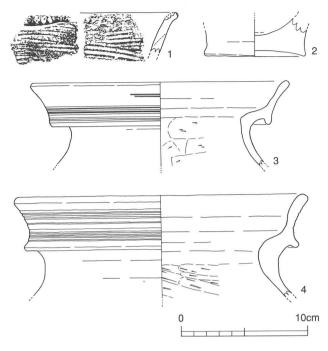
可能性もある。 第120図 SD12出土遺物 溝の規模は幅1m以上、深さ約0.25mで、壁 の立ち上がりは、東側で内湾しながら立ち

0

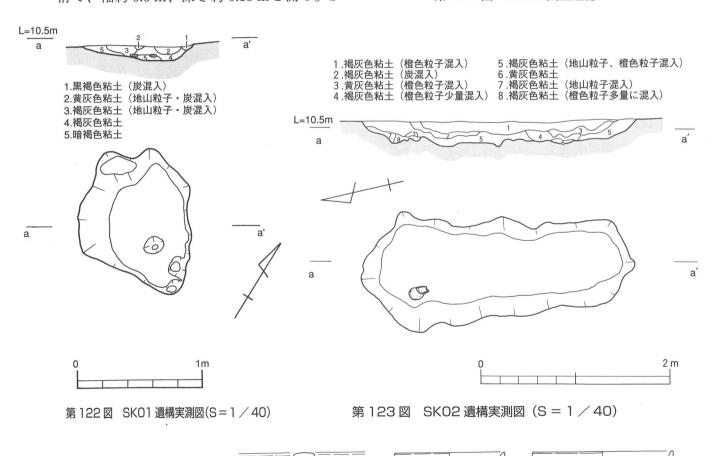
5cm

第130図1は瓷器系陶器甕で、内面にヘラケズリ調整を施し、外面にナデ調整を施す。 外面及び断面に粘土の接合痕が残る。2は在地土器捏鉢で、内面にナデ調整を施す。

<SD 01 > (第111、113、115~116、131図) 北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺 構で、幅約 0.6 m、深さ約 0.15 mを測る。S



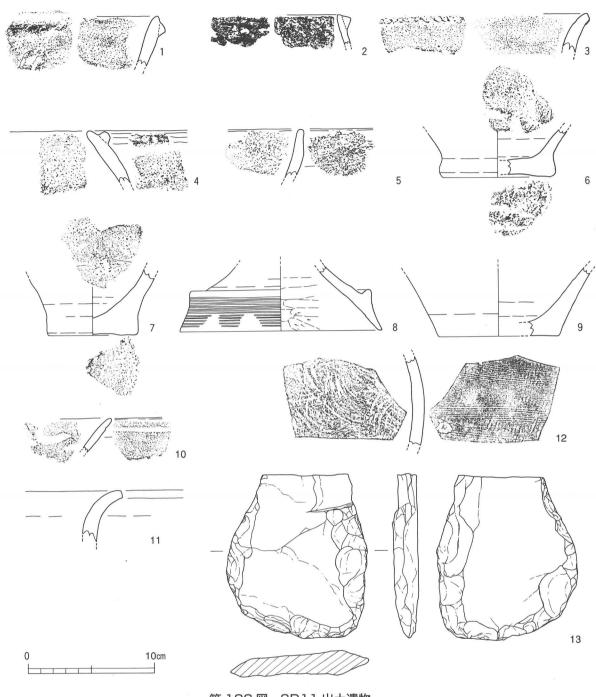
第 121 図 SD09 出土遺物



第 124 図 SKO1 出土遺物

5 cm

第 125 図 SKO2 出土遺物

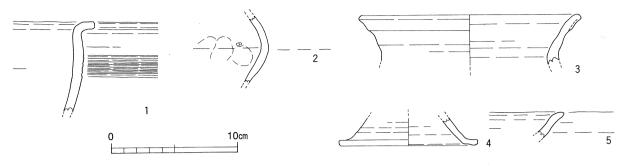


第 126 図 SD11 出土遺物

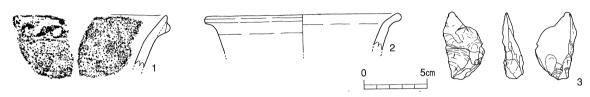
D 03 と同じ埋土を含むことから、SD 03 と同じ時期の溝と考えられる。 壁の立ち上がりは、東西ともに外方に直線的に伸びるが、中程にステップ状の平坦面を残す。



第131 図1~2 は弥生土器の甕である。1 は底部で外面にナデ調整を 第127 図 SKO6 出土遺物 施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。2 は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を上下に拡張させている。端部には2条の擬凹線が施されている。3~5 は土師器である。3 は高坏で、内面にハケ目調整を施し、外面にナデ調整を施す。4 は低脚坏の脚部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。裾部端部は尖り気味に仕上げている。5 は円筒

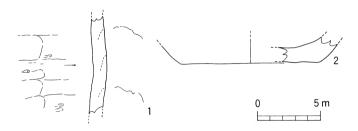


第 128 図 SD06 出土遺物



第 129 図 SD15·SD19 出土遺物

埴輪で、外面に縦方向のハケ目調整を施す。 内面は風化が著しいが、ヘラミガキ調整ま たはヘラケズリ調整を施しているものと考 えられる。6~8は須恵器である。6は甕の 口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施 す。端部は丸く仕上げている。7は蓋の口



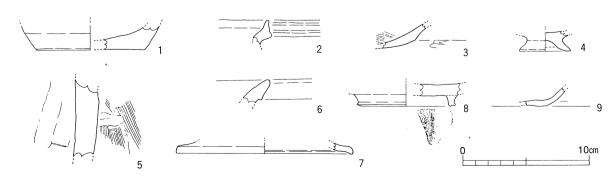
第 130 図 SD02 出土遺物

縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。端部は内側に屈曲させ丸く仕上げている。8は底部で、 内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部には高台を貼付している。9は土師質土器坏で、内外面と もに回転ナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。

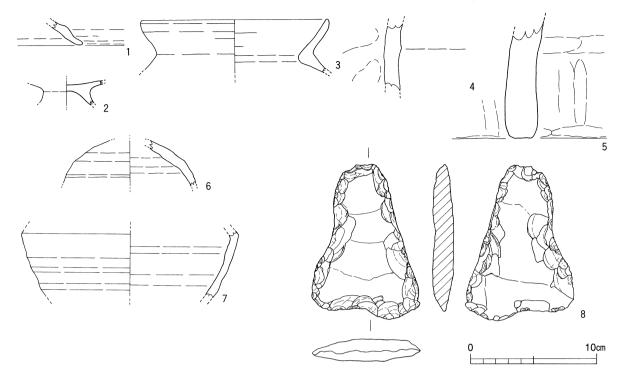
# <SD 03 > (第 111、113、116、132 図)

北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約 0.4 m、深さ約 0.2 mを測る。SD 01 と同じ埋土を含むことから、SD 01 と同じ時期の溝と考えられる。壁の立ち上がりは、東側が内湾気味に伸びた後外反気味に立ち上がり、西側は外方に直線的に立ち上がる。

第 132 図 1 は弥生土器蓋で、内外面ともにナデ調整を施す。裾の広がりは口唇部で外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。 $2\sim4$  は土師器である。2 は低脚坏の脚部で、外面及び底部にナデ調整



第 131 図 SDO1 出土遺物



第 132 図 SD03 出土遺物

を施す。裾部は外反気味に伸びる。3 は甕で、口縁部内外面及び体部外面にナデ調整を施し、体部内面にはヘラケズリ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。4~5 は円筒埴輪である。



第 133 図 SD04 出土遺物

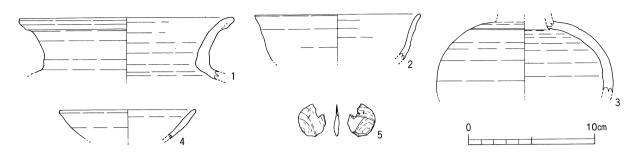
4 は内面に指頭圧痕を施し、外面にナデ調整を施す。5 は底部で、外面にナデ調整及びヘラミガキ調整を施す。底部にはカット技法を施し、平坦面を作っている。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。6  $\sim$  7 は須恵器である。6 は坏蓋で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。7 は長頸瓶の体部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。6 は石斧である。8 は石斧である。8 は石斧である。8 は石斧である。6 以 2 (第 111、113、116、133 図)

北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約0.3 m、深さ約0.1 mを測る。遺構の掘り込み面は③層上面である。SD03と遺物の接合関係があることから、SD03と同時期の遺構と考えられる。壁の立ち上がりは、東側が内湾気味に立ち上がり、西側は外方に直線的に立ち上がる。

第133図1は弥生土器甕で、複合口縁を呈するものと考えられる。口縁部及び頸部内外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施している。2は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残しているものと考えられる。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。 <SD 10 > (第111、116、134 図)

北西から南東方向にかけて伸びる溝状遺構で、幅約1.4 m、深さ約0.25 mを測る。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で内湾気味に立ち上がる。

第  $134 \otimes 1 \sim 3$  は須恵器である。1 は甕で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外反しながら立ち上がり、外側に折り曲げている。端部は丸く仕上げている。2 は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。3



第134図 SD10出土遺物

は水注の肩部から体部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。体部上半分は球状を呈し、上部に細身の頸部が接合するものと考えられる。4は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。 器形から下部に柱状高台が付く可能性もある。口縁部は内湾気味に立ち上がりやや外傾する。端部は尖り気味に仕上げている。5は赤瑪瑙の薄片である。

# <SK 11 > (第 111、135 図)

縦長 1.55 m、横幅 0.6 m、深さ約 0.2 mの平面楕円形の土壙である。 壁の立ち上がりは、やや外方に直立的に立ち上がる。

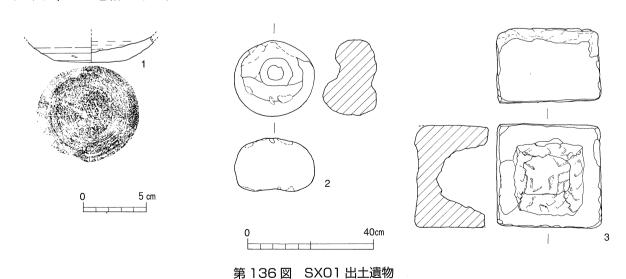
第 135 図 SK11 出土遺物

第135図1は縄文土器口縁部である。内外面ともにナデ調整を施し、外面に刻目突帯を貼付している。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、端部は尖り気味に仕上げている。

## <SX 01 > (第 111、116、136 図)

調査区の端部で確認した遺構で、SD 21 と繋がる可能性もある。遺構に隣接して方形状の凹みを4 か所確認しており、出土した五輪塔はこの位置に設置されていたものと考えられる。

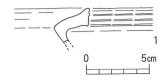
第 136 図 1 は須恵器坏身である。内面は回転ナデ調整を施した後ナデ調整及び指頭圧痕を施す。 外面は回転ナデ調整を施し、底部には回転ヘラ切りの後、ヘラ記号  $\lceil \times \rfloor$  及び格子状のヘラ記号が 残る。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。 $2 \sim 3$  は五輪塔である。2 は水輪で、最大径を中程に持 つタイプ、3 は地輪である。



<SD 08 > (第 111、137 図)

北西から南東に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約1.2m、深さ約0.1mである。

第137図1は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外 反気味に立ち上がり、端部で上下に拡張させている。端部には3条 の擬凹線が施されている。

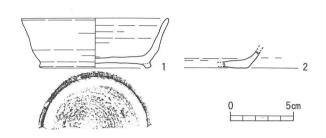


第 137 図 SD08 出土遺物

#### <SD 16 > (第 110 ~ 111、138 図)

調査区北端で検出した溝状遺構で、横幅 0.5 m以上、深さ約 0.15 mを測る。

第138図1は須恵器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部は回転糸切の後高台を貼付している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。2は土師質土器坏である。

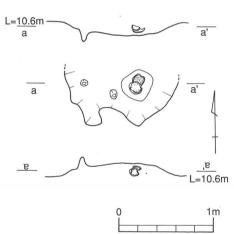


第138図 SD16出土遺物

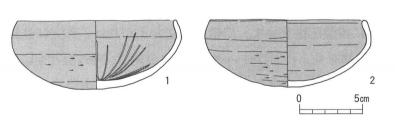
## <SK 09 > (第 139 ~ 140 図)

東西 1.2 m以上、南北 0.6 m以上、深さ約 0.1 mの擂鉢状の土壙である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で内湾気味に立ち上がる。

第140図1~2は土師器坏で、口縁部内外面にナデ調整を施し、器壁中程から底部にヘラケズリ



調整を施す。内外面ともに赤彩を施している。1 は内面見込に 放射状の暗文を施す。口縁部は口唇部から内傾し、端部を尖り 気味に仕上げている。2 は口縁部は口唇部から内側に内湾気味 となる。端部は丸く仕上げている。



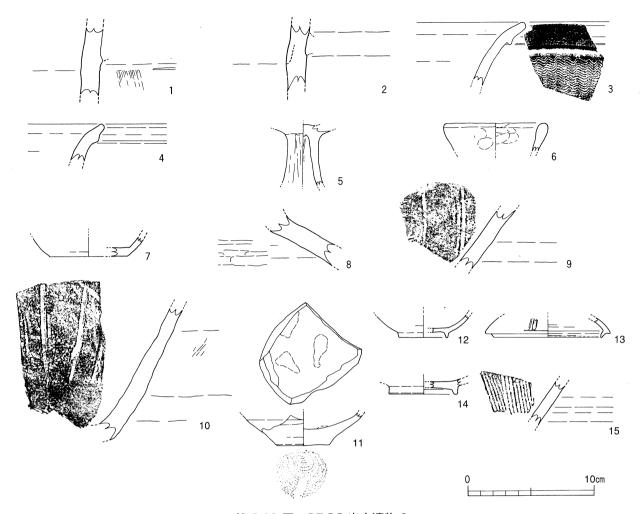
第139図 SK09遺構実測図(S=1/40)

第 140 図 SK09 出土遺物

<SD 20 > (第 110 ~ 111、116 ~ 117、141 ~ 142 図)

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約  $10.0 \,\mathrm{m}$ 、深さは約  $0.3 \,\mathrm{m}$ を測る。切り合い関係からSD  $21 \,\mathrm{B}$  びSD  $29 \,\mathrm{s}$  り古い遺構と考えられる。一方、現状での掘り込み面は③層下からであるが、周辺は $4 \,\mathrm{m}$  ⑤層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側は外反しながら立ち上がり、西側は外反気味に立ち上がる。

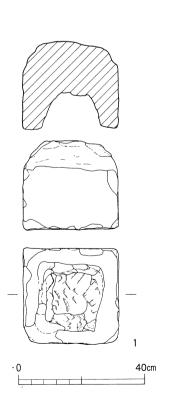
第141図1~2は円筒埴輪である。1~2は内面にナデ調整、外面に縦方向のハケ目調整を施す。 立ち上がりは外反気味に立ち上がり、外面にはタガの接合痕が残る。2は断面にも粘土の接合痕が 残る。3~4は須恵器甕の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3は外面に波状文を施す。 口縁部は外反しながら立ち上がり、肥厚させて端部を平坦気味に仕上げている。4は外反しながら 立ち上がり、肥厚させて端部を丸く仕上げている。外面に自然釉が付着している。5は土師器高坏 の脚部で、内外面ともにヘラミガキ調整を施す。裾部は外反気味に広がる。6は製塩土器で、内外面



第 141 図 SD20 出土遺物 1

ともに指頭圧痕を施す。口縁部の立ち上がりは、外方に直線的に伸び、端部を丸く仕上げている。7は白磁碗で、内外面ともに施釉する。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。器壁と内面見込の間に界線を施している。8は瓷器系陶器甕の肩部で、内外面ともにナデ調整を施す。外面に灰が被る。9~10は在地土器の擂鉢で、立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。内面には擂目が施されている。9は内外面ともにナデ調整を施す。10は内面にナデ調整を施し、外面にはハケ目及びナデ調整が施される。11は肥前系陶器境で、内外面に回転ナデ調整を施した後、内外面ともに施釉している。底部には回転糸切痕が残り露胎としている。内面見込に砂目積みの痕跡が残る。12は京焼風陶器で、内面は施釉し貫入が入る。底部は露胎としている。13は肥前系染付蓋で、内外面ともに施釉し、口縁部端部は露胎としている。外面には染付を施している。14は近世以降の陶器擂鉢で、内面に擂目を施し、外面には回転ナデ調整及び回転へラケズリ調整を施している。

第142図は宝篋印塔の基礎で、上部は細くしている。風化が著しい



第 142 図 SD20 出土遺物 2

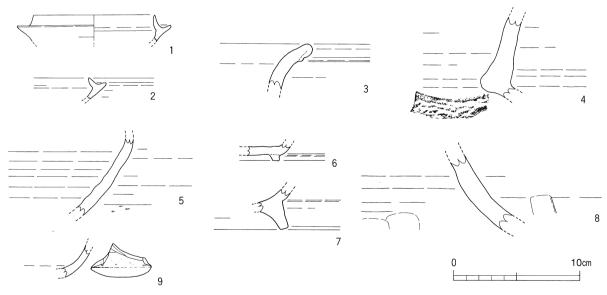
が壇状の加工がされていた可能性がある。

 $\langle SD 21 \rangle$  (第 110 ~ 111、116 ~ 117、143 図)

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約  $1.8\,\mathrm{m}$ 、深さ約  $0.75\,\mathrm{m}$ を測る。切り合い関係からSD 20 より新しく、SD 29 より古い遺構と考えられる。現状での掘り込み面は③層下からであるが、SD 20 と同じく周辺は4~⑤層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側で外反気味に立ち上がり、西側で外反しながら立ち上がる。

第143 図1~6 は須恵器である。1~2 は坏身の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。かえりの立ち上がりは、1 は上方に反り上げ、2 は内側に伸びる。端部はともに尖らせている。3~4 は甕である。3 は口縁部で、外面に回転ナデ調整を施している。口縁部の立ち上がりは外反しながら立ち上がり、外側に折り曲げる。端部は丸く仕上げている。口縁部に1条の沈線を施している。4 は頸部から体部で、内外面ともにナデ調整を施す。体部内面には青海波を施しているものと考えられる。5 は鉄鉢形須恵器の可能性がある遺物で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部外面にはヘラケズリ調整を施している。立ち上がりは内湾気味である。6 は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼付している。器壁と内面見込の間に界線を施している。7 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に高台を施している。8 は瓷器系陶器甕の頸部から肩部で、内外面頸部内外面にナデ調整を施し、肩部内面に圧痕、外面にヘラケズリ調整を施す。肩部外面に灰が被る。9 は肥前系染付埦で、外面に染付を施す。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。

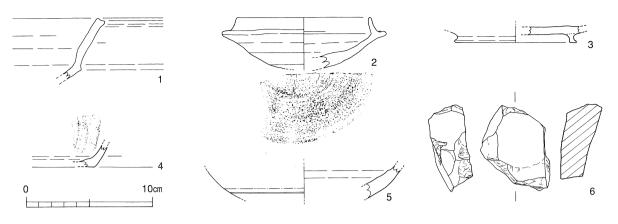
# <SD 29 > (第 110、144 図)



第 143 図 SD21 出土遺物

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約 $0.8\,\mathrm{m}$ 、深さ約 $0.6\,\mathrm{m}$ を測る。切り合い関係からSD 20 及びSD 21 より新しい遺構と考えられる。SD 20 及びSD 21 と同じく、現状での掘り込み面は③層下からであるが、周辺は4-5層が後世に削平されており、本来何層上面から掘り込まれていたかは不明である。壁の立ち上がりは、東側で外反しながら立ち上がり、西側で外方に直線的に立ち上がる。底部は袋状になっている。

第144図1は弥生土器甕の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。複合口縁を呈する口縁部の立



第 144 図 SD29 出土遺物

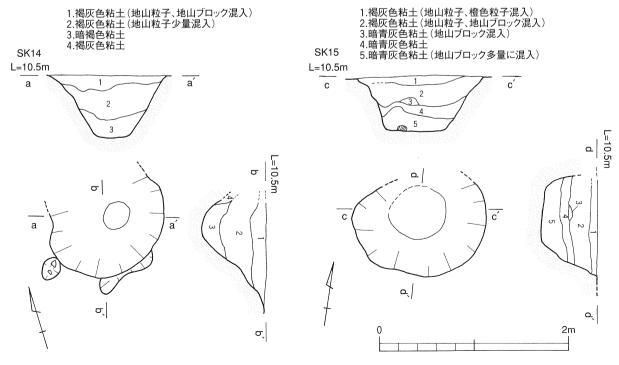
ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部に平坦面を作っている。口縁部外面にススが付着する。2~3は須恵器である。2は坏身で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。底部には回転へラ切りを施している可能性がある。口縁部のかえりは、内側に直線的に伸び、端部を尖らせている。3は底部で、内面見込にナデ調整を施し、底部には高台を貼付して回転ナデ調整している。高台端部外側が外方に拡張している。4は土師質土器坏で、内面に回転ナデ調整を施している。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5は産地不明の陶器で、内面に回転ナデ調整を施し、外面は施釉の後底部を釉ハギし露胎を作っている。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。6は青瑪瑙の原石で、一部打点が残る。

# <SD 17 > (第 110 ∼ 111 図)

北西から南東方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約 0.5 m、深さ約 0.15 mを測る。

## <SK 14 > (第 145 図)

東西 1.22 m以上、南北 1.12 m以上、深さ 0.66 mを測る土壙である。壁の立ち上がりは東側で外方に直線的に立ち上がり、西側で外反しながら立ち上がる。



第 145 図 SK14·SK15 遺構実測図 (S = 1 / 40)

## <SK 15 > (第 145 図)

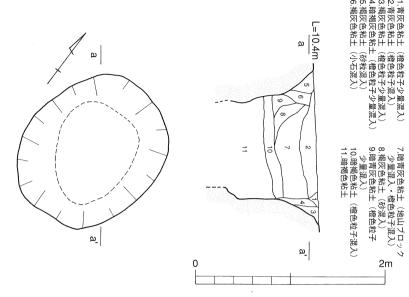
東西 1.42 m、南北 1.02 m以上、深さ 0.60 mを測る土壙である。壁の立ち上がりは、東側で外反気

味に立ち上がり、西側で 外反しながら立ち上がる。 <SE01>(第146~147図)

東西1.59 m、南北1.64 m、 深さ1.01 m以上を測る井 戸跡である。壁の立ち上 がりは、南北ともに外反

しながら立ち上がる。

第147図1は須恵器甕である。内面には青海波を施し、外面には幅広の平行タタキを施している。2~3は土師質土器である。

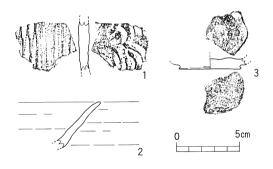


第146 図 SE01 遺構実測図 (S = 1 / 40)

2は坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、やや括れを持った後外反気味となる。端部は尖らせている。3は坏または小皿で、内面に回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。

 $\langle SD 23 \sim 28 \setminus SD 31 \rangle$  (第 109  $\sim$  110、118 図)

調査区西側に密集する溝状遺構群で、溝の大半が検 出した基盤層を巡るように伸びていることから、旧丘 陵の周りを巡っていた溝と考えられる。

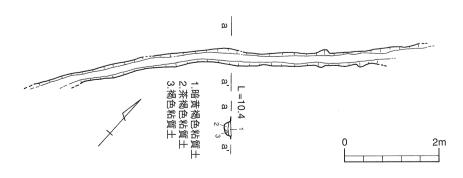


第 147 図 SEO1 出土遺物

SD23は横幅約0.5m、深さ約0.3m、SD24は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD25は横幅約0.4m、深さ約0.2m、SD26は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD27は横幅約0.2m、深さ約0.1m、SD28は横幅約0.5m、深さ約0.2m、SD31は横幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。切り合い関係からSD24が最も古く、SD23、SD25及びSD26、SD27、SD28といった順に作られている。遺物が出土していないことから、時期の詳細は不明であるが、SD23が④層上面で確認されていることから、少なくともSD23以降の溝については、中近

一方、溝は新しくなるにつれてルートを南側 丘陵近辺に移行している。溝が旧丘陵の 裾を巡らせていたものとするなら、丘陵 は徐々に削平されて

世以降と考えられる。



第148 図 SD30 遺構実測図 (S = 1 / 80)

いったのであろう。

花粉分析の結果からは、付近で蕎麦畑や水田が作られていた可能性が考えられている。検出された溝もこれらの耕作に関係するのであろう。

#### <SD 30 > (第 148 図)

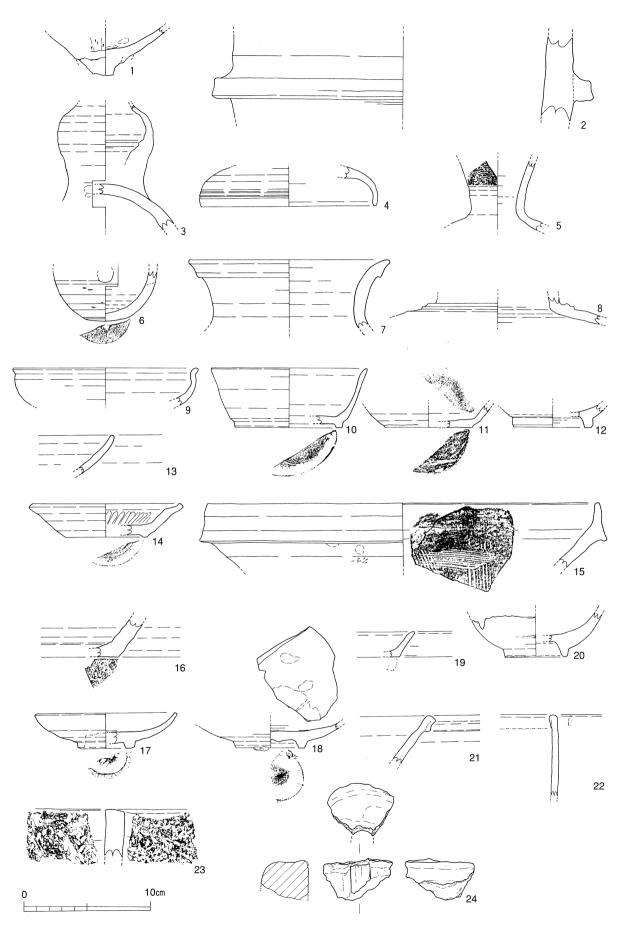
北東から南西方向に伸びる溝状遺構で、溝の規模は横幅約 0.3 m、深さ約 0.15 mを測る。壁の立ち上がりは、南北ともに外方に直線的に立ち上がる。

#### b. 包含層出土遺物

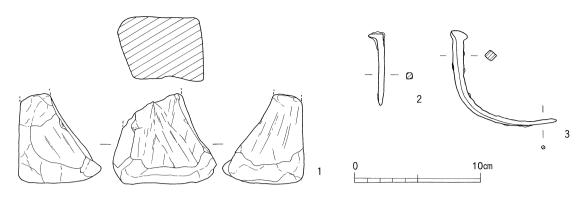
出土遺物から①~③層は近世以降、④~⑤層は弥生時代から中世まで、⑥層は弥生時代初頭前後まで、⑦層は縄文後期を中心とした時期に堆積した層と考えられる。

#### <第②層> (第 149 $\sim$ 151 図)

第 149 図  $1 \sim 2$  は土師器である。1 は高坏で、内面にはナデ調整及び指頭圧痕を施し、外面にはへ ラケズリ調整及びナデ調整を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。底部には円盤を充填して いる。2は円筒埴輪で、内外面ともにナデ調整を施す。外面にタガを施している。3~11は須恵器で ある。3は子持壺の小壺で、体部片に小壺片が付着している。小壺は内外面ともに回転ナデ調整を 施しており、体部との接合部で圧痕を残す。4は坏蓋の口縁部で、内外面ともに回転ナデを施す。口 縁部は内湾しながら伸び、端部を尖り気味に仕上げている。外面には3条の浅い沈線を施している。 5は 
は 
 随の 
 頸部 
 及び 
 肩部 
 内面 
 にナデ調整 
 を施し、 
 頸部 
 内外面 
 及び 
 肩部 
 内面 
 にナデ調整 
 を 施す。また頸部外面には波状文及び1条の沈線が施されている。立ち上がりは外反気味に立ち上が る。6は内外面に回転ナデ調整を施し、体部外面下半分に回転ヘラケズリ調整を施す。体部中程に 穿孔が施されている。7は須恵器甕の口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。口縁部は外反しな がら立ち上がり、肥厚させて端部を尖り気味に仕上げている。8は長頸瓶の肩部で、内外面ともに回 転ナデ調整を施す。肩部外面に2条の稜線が施されている。 $9 \sim 11$  は坏である。9は口縁部で、内 外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾しながら立ち上がり括れて外傾する。端部は尖り気 味に仕上げている。10は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部は高台を貼付しナデ調整している。 底部にヘラ状工具痕が残る。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部は尖り気味に仕上げている。11 は内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部には回転糸切痕を残す。立ち上がりは外方に直線的に伸 びる。12は白磁碗で、内外面ともに施釉している。底部は削り出し高台で、釉ハギし露胎を作って いる。13 は土師質土器坏の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。口縁部は内湾気味に立ち 上がり、端部は丸く仕上げている。14は瀬戸焼灰釉折縁皿で、内外面ともに施釉し、内面見込及び 底部を釉ハギしている。施釉部には貫入が入る。内面器壁に菊花弁が陰刻されていることから、菊 花皿になるものと考えられる。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部は平坦気味に仕上げてい る。 $15\sim16$  は備前焼である。15 は擂鉢で、内面にナデ調整を施した後、1 単位8 条の擂目を施し、 外面にはナデ調整を施した後、一部に指頭圧痕、ヘラケズリ調整を施す。口縁部は外方に直線的に 立ち上がり、上下に拡張させている。端部は丸く仕上げている。乗岡氏の中世5期aの遺物である。 16 は壺で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、外面はその後ナデ調整を施している。立ち上がりは 内湾気味に立ち上がる。17は白磁皿で、内外面ともに施釉し、底部には露胎を作っている。高台は

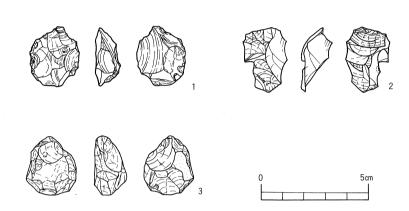


第149図 第②層出土遺物1



第 150 図 第②層出土遺物 2

削り出し高台である。口 縁部は内湾しながら立ち 上がり、端部に平坦面を 作っている。18 は肥前 系陶器で、内面を施釉し 底部は露胎としている。 高台は削り出し高台で、 内面見込及び高台畳付に 胎土目積みの痕跡が残る。



第151図 第2層出土遺物3

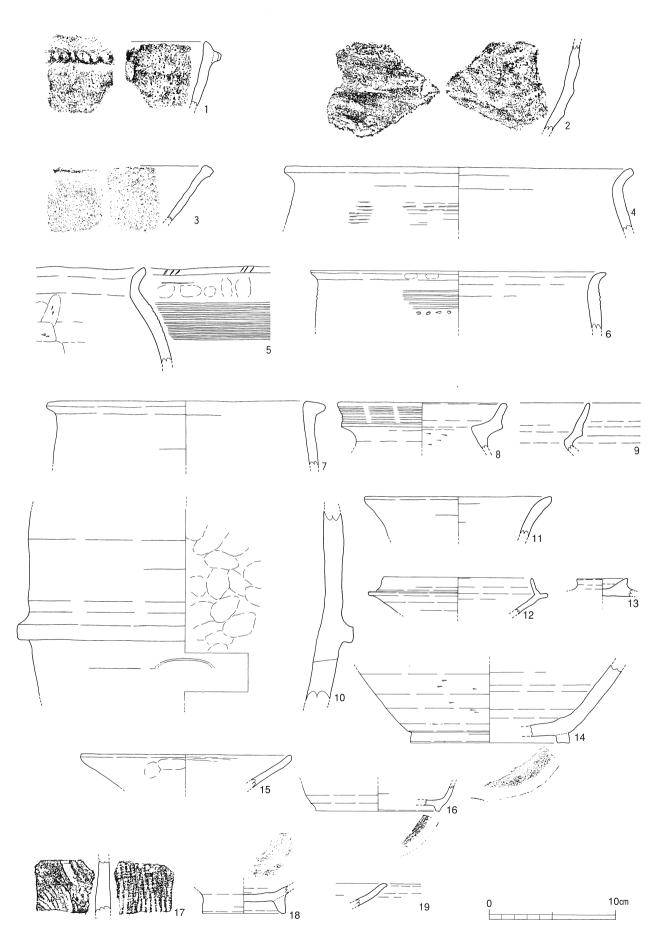
立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。19 は土師質土器で、内外面ともに回転ナデ調整を施し、底部に回転糸切痕を残す。外面の器壁及び底部の界線が明確である。口縁部の立ち上がりは外反気味に立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。20 は陶胎染付焼で、内外面ともに施釉し、高台畳付は露胎としている。高台見込は高台周辺より深く作り、外面には染付を施している。立ち上がりは内湾しながら立ち上がる。21 は産地不明の捏鉢または擂鉢である。内外面ともに回転ナデ調整を施している。口縁部は外反気味に立ち上がり、外側に折り曲げる。端部は平坦気味に仕上げている。22 は布志名焼火鉢で、口縁部内外面及び外面を施釉し、内面を露胎としている。口縁部は内湾気味に立ち上がる。23 は用途不明の粘土板で、全面に多量の籾殻痕が残る。24 は羽口である。

第 150 図 1 は砥石で、3 面を使用している。2 ~ 3 は鉄釘で、釘頭は 2 がL字形、3 はT字形を呈する。

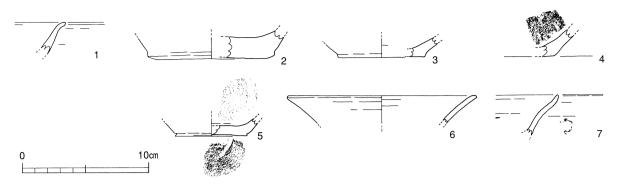
第 151 図  $1 \sim 2$  は石器の未製品で、1 は黒曜石に酷似したガラス質の石、2 は黒曜石である。3 は水晶の未製品である。

#### <第③層>(第 152 ~ 155 図)

第155図1~3は縄文土器である。1~2は内外面ともにナデ調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。1は口縁部外面に刻目突帯を貼付する。3は内面にヘラケズリ調整を施し、外面は口縁部にナデ調整、下部に二枚貝条痕を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、肥厚させて、端部に平坦気味な面を作っている。4~9は弥生土器甕である。4は口縁部内外面にナデ調整を施し、肩部外面に数条の凹線を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部で平坦気味に仕上げている。

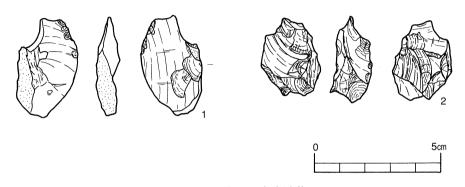


第 152 図 第③層出土遺物 1



第153図 第3層出土遺物2

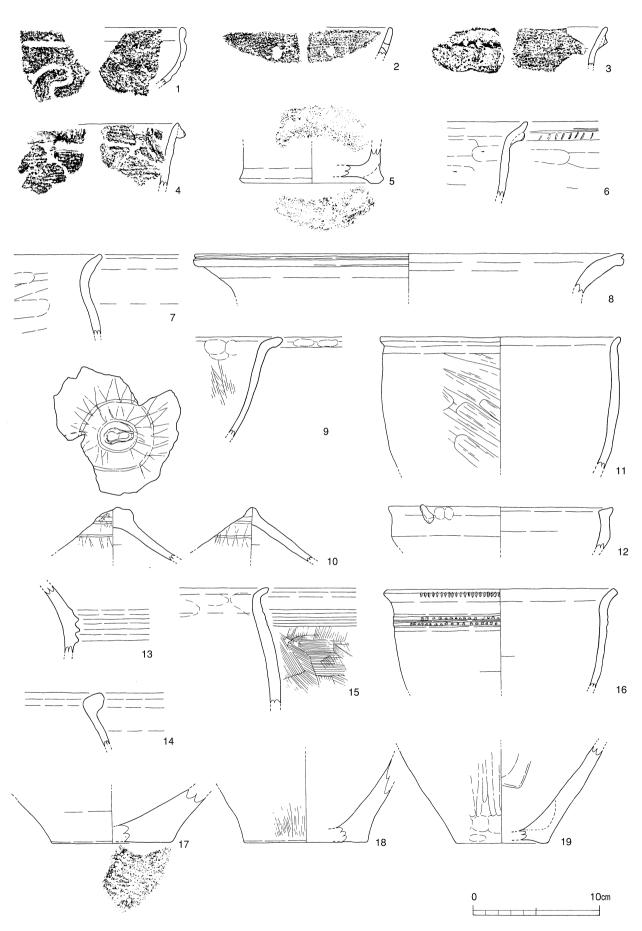
5 は内面は口縁部に ナデ調整、体部にへ ラケズリ調整を施し、 外面は口縁部にナデ 調整の後指頭圧痕、 体部はナデ調整の後 11 条の凹線を施す。 口縁部は外反気味に



第 154 図 第③層出土遺物 3

立ち上がり、端部を平坦気味にして刻目文を施す。6は内外面にナデ調整を施し、外面に凹線及び刺 突文を施す。口縁部は外反しながら立ち上がり、端部を尖り気味に仕上げている。7は口縁部内外 面ともにナデ調整を施す。口縁部は内側に直線的に立ち上がり、肥厚させて外側に折り曲げる。端 部には平坦面を作っている。8は口縁部内外面及び頸部外面にナデ調整を施し、頸部内面にヘラケ ズリ調整を施している。複合口縁を呈する口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げてい る。口縁部外面に4条の擬凹線を施している。9は複合口縁を呈する口縁部で、内外面ともにナデ調 整を施す。口縁部は外方に括れ気味に伸び、端部を尖り気味に仕上げている。10~11、13は土師器 である。10 は円筒埴輪で、内面に指頭圧痕を施し、外面にナデ調整を施す。体部には円形透かし及 びタガを施している。11は甕の口縁部で、外面にはナデ調整を施す。口縁部は外反しながら立ち上 がり、端部を丸く仕上げている。13は蓋で、内外面ともにナデ調整を施す。須恵器の模倣である可 能性もある。12、14、 $16\sim17$ は須恵器である。12は坏身の口縁部で、内外面ともに回転ナデ調整 を施す。口縁部のかえりは、内側に伸びた後反り上がる。端部は丸く仕上げている。14は鉢の底部 で、内面に回転ナデ調整を施し、外面には回転ヘラケズリ調整の後ナデ調整を施す。底部には高台 を貼付しナデ調整している。内面見込には自然釉が付着する。16 は坏で、内外面ともに回転ナデ調 整を施し、底部には高台を施してナデ調整している。17は甕片で、内面に車輪文、外面に平行タタ キを施す。15、18は土師質土器坏である。15は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施し、外面には 指頭圧痕を施している。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。18 は底部 で、内面に回転ナデ調整を施し、底部には高台を貼付後回転ナデ調整している。19は京都系緑釉陶 器皿で、内外面ともに施釉している。口縁部は内湾気味に立ち上がり外側に屈曲する。

第153図1は白磁碗の口縁部で、内外面を施釉している。口縁部は内湾気味に立ち上がり外傾する。

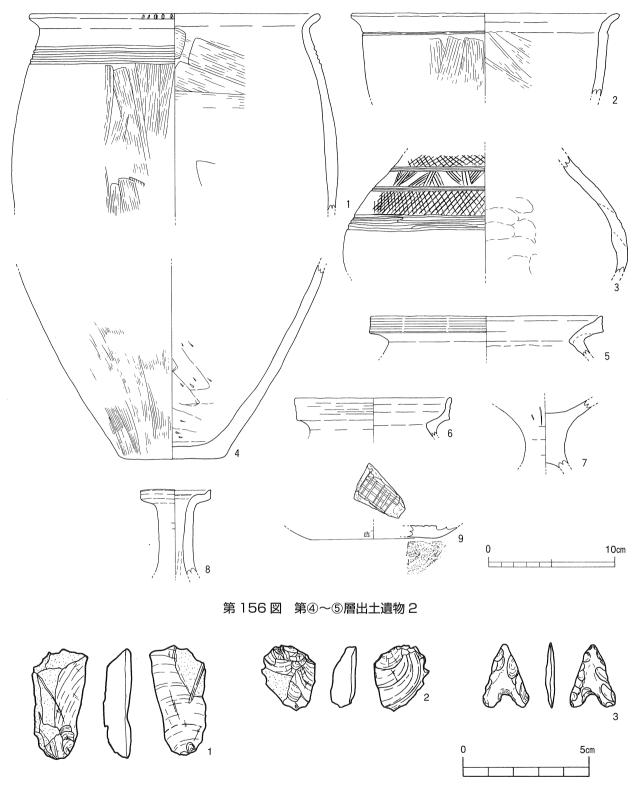


第 155 図 第 4~ ⑤ 層出土遺物 1

端部は尖り気味に仕上げている。2 は在地土器の捏鉢または擂鉢である。内外面ともにナデ調整を施す。3、5~6 は土師質土器坏で、内外面ともに回転ナデ調整を施す。3、5 は立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。5 は底部に糸切痕を残す。6 は外反気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。4 は瓦質土器擂鉢の底部で、内外面ともにナデ調整を施し、内面に擂目を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。7 は青花碗で、内外面ともに施釉し染付を施している。口縁部の立ち上がりは、外反した後内湾気味に立ち上がる。端部は尖り気味に仕上げている。

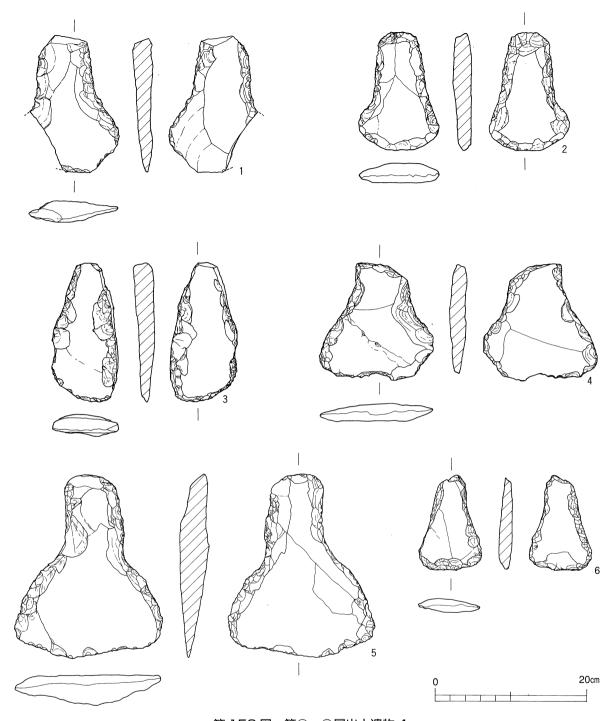
第 154 図 1 ~ 2 は石器の未製品である。1 は暗紫色を呈する硅質な石、2 は黒曜石である。 < 第4)~⑤層> (第 155 ~ 158 図)

第 155 図 1 ~ 5 は縄文土器である。1 は内外面ともにナデ調整を施し、外面には沈線を施す。口縁 部は内湾しながら立ち上がりやや内傾する。端部は丸く仕上げている。2 は内外面ともにナデ調整 を施し穿孔している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3は内面に2枚貝 条痕を施し、外面にナデ調整を施す。口唇部外面には刻目突帯を施している。口縁部の立ち上がり は口唇部で外傾し、端部は尖り気味に仕上げている。4は内外面に2枚貝条痕を施し、口縁部外面に 刻目突帯を貼付してナデ調整している。口縁部は外方に直線的に立ち上がる。5は内外面ともにナ デ調整を施し、底部に高台を貼付している。 $6\sim19$ は弥生土器で、このうち $6\sim9$ 、11、 $14\sim19$ は 甕である。6~7は口縁部内外面及び体部外面にナデ調整を施し、体部内面にヘラケズリ調整を施す。 6 は口唇部外面に刻目突帯を施し、突帯上部に1条の凹線を施すことによって、器壁との界線を作っ ている。口縁部の立ち上がりは、口唇部で外傾し内湾気味となる。端部は尖り気味に仕上げている。 7は口縁部は外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。8は口縁部で内外面ともにナデ調整 を施す。口縁部は外反気味に立ち上がり、端部に1条の凹線を施している。9は口縁部内外面にナデ 調整及び指頭圧痕を施し、体部内面にハケ目調整、体部外面にナデ調整を施している。口縁部は口 唇部で外傾し、端部を丸く仕上げている。11 は口縁部内外面にナデ調整を施し、体部外面にはハケ 目調整を施す。口縁部は外傾し丸く仕上げている。14 は口縁部内外面にナデ調整を施す。口縁部は 外側に肥厚させ、端部に平坦面を作っている。15は口縁部内外面にナデ調整を施した後、内面には 指頭圧痕を施す。体部外面にはハケ目調整を施し、肩部外面には3条の凹線を施す。口縁部は外傾 し、端部を尖り気味に仕上げている。16は外面にナデ調整を施し、体部上側に2条の突帯を作り列 点文を施している。口縁部は口唇部から外反気味に立ち上がり、端部で平坦面を作る。端部外側に は刻目文が施されている。 $17\sim19$ は底部である。17は外面にナデ調整を施す。立ち上がりは外反 気味に立ち上がる。18は外面にハケ目調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。19は内面 にヘラケズリ調整を施し、外面にヘラミガキ調整及び指頭圧痕を施す。断面及び内面に粘土の接合 痕が残る。立ち上がりは外方に直線的に伸びる。10は壺用蓋で、内外面ナデ調整を施した後、外面 に各2条のヘラ描き沈線2組及び松葉状のヘラ描き沈線を残す。天井部には摘みを施している。12 は鉢で、内外面ともにナデ調整を施し、口縁部外面に指頭圧痕及び粘土塊を残す。口縁部は内傾気 味に立ち上がり、端部を外方に肥厚させて平坦面にしている。13は壺の体部で、内外面ともにナデ 調整を施す。外面には断面三角形の貼付突帯が施されている。因幡・伯耆からの搬入土器である可 能性もある。



第 157 図 第 4 ~ ⑤ 層出土遺物 3

第156図1~6は弥生土器で、このうち1~2、4~6は甕である。1は口縁部内外面及び頸部外面にナデ調整を施し、体部内外面及び頸部内面にハケ目調整を施す。肩部外面には4条の凹線が施されている。口縁部は外傾し、端部を丸く仕上げて刻目文を施す。2は口縁部内外面にナデ調整を施し、体部内外面にハケ目調整を施す。外面口縁部と体部の間には1条の凹線が施され界線となっ



第 158 図 第 4 ~ 5 層出土遺物 4

ている。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。4 は底部で、内面にヘラケズリ調整を施し、外面にハケ目調整を施す。立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。5~6 は口縁部で、内外面ともにナデ調整を施す。5 は口縁部は外反気味に立ち上がり、上下を拡張させて端部に3条の擬凹線を施している。頸部断面に粘土の接合痕が残る。6 は複合口縁を呈する口縁部の立ち上がりは、外反気味に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3 は壺の肩部から体部で、体部外面にヘラミガキ調整を施し、肩部に斜格子文、4条の凹線・羽状文が施される。7 は土師器高坏で、脚部にヘラミガキ調整を施し、体部にハケ目調整を施しているものと考えられる。また内外面ともに赤彩が残り、全面に赤彩が施されていた可能性がある。8 は須恵器浄瓶で、口縁部内外面及び頸部外面に回転

ナデ調整を施し、内面にはナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは、外側に水平気味に開いた後上 方に突出する。端部は尖り気味に仕上げている。9は瀬戸焼卸皿の底部で、内面に卸目を施し、外面 は回転ナデ調整の後施釉していたものと考えられる。底部には回転糸切痕が残り、漆が付着している。

第 157 図  $1 \sim 2$  は石器の未製品で、黒曜石のものである。3 は石鏃で、安山岩のものである。

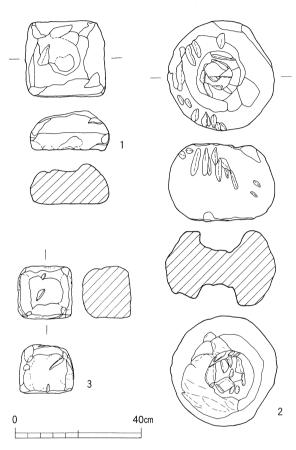
第 158 図  $1\sim6$  は石斧である。1、4 は刃先を拡張させたタイプ、2、6 は刃先の拡張が少なく小型のタイプ、3 は縦長のタイプ、5 は刃先の拡張が大きく大型のタイプである。

< その他の遺物 1~2> (第159~160図)

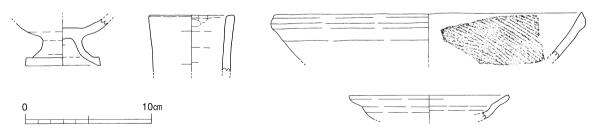
第 159 ~ 160 図は①~③層出土遺物及び排土中 遺物である。

第 159 図  $1 \sim 2$  は五輪塔で、1 は火輪、2 は水輪である。2 は肩部に工具痕が残る。3 は立方体状の石製品で、用途不明のものである。

第160図1は須恵器高坏で、内面見込にナデ調整を施し、外面に回転ナデ調整を施す。脚部は中程で屈曲気味に広がり、端部で尖り気味に仕上げている。2は製塩土器で、内外面ともにナデ調整を施し、口縁部に指頭圧痕を施している。口縁部の立ち上がりは直立的であるがやや外反している。端部は平坦気味に仕上げている。3は在地土器の擂鉢で、内面に擂目を施し外面にナデ調整を施している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、やや肥厚させて、端部を尖り気味に仕上げている。4は青磁の皿で、内外面ともに施釉する。口縁部の立ち上がりは口唇部で外傾し、内湾気味に伸びる。端部は尖り気味に仕上げている。2次被熱の可能性がある。



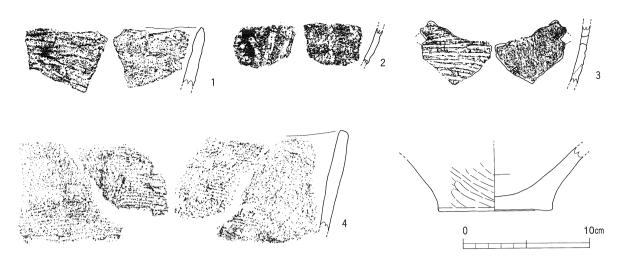
第 159 図 その他の出土遺物 1



第160図 その他の出土遺物2

## <第6層> (第161図)

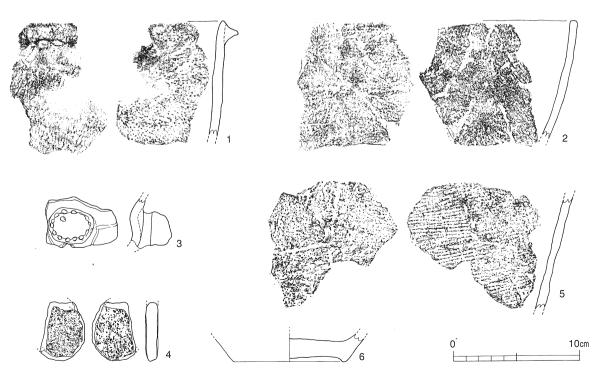
第164図1~5は縄文土器である。1は内面にヘラケズリ調整を施し、外面にヘラミガキ調整を施す。口縁部端部は尖り気味に仕上げている。2は大突起深鉢形土器の口縁部である。外面に沈線を施している。3は内面にヘラケズリ調整を施し、外面に条痕を施す。穿孔が施されている。断面には粘土の接合痕が残る。4は内外面ともに2枚貝条痕を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、



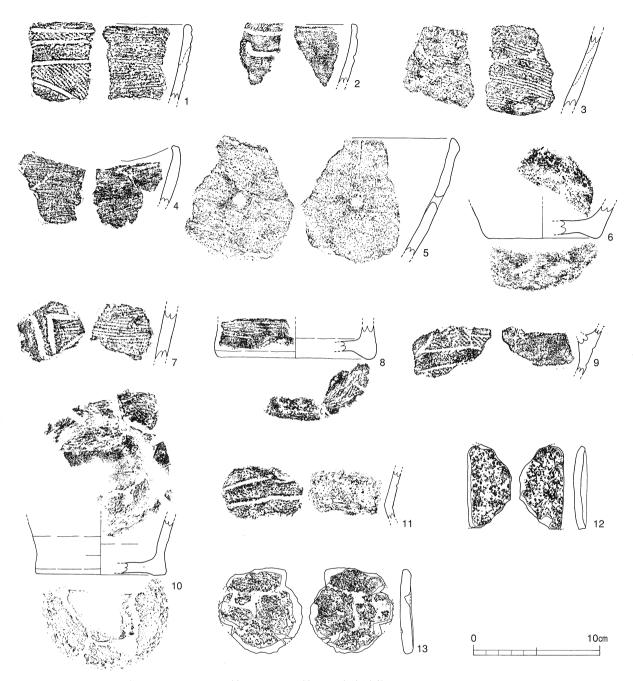
第161図 第⑥層出土遺物

端部を平坦気味に仕上げている。5 は外面にヘラミガキ調整を施す。立ち上がりは外反気味に立ち上がる。 <第⑦層> (第  $162\sim163$  図)

第162図1~6は縄文土器である。1は内外面ともにナデ調整を施す。口縁部の立ち上がりは外方に直線的で、口縁部外面には突帯を貼付している。2は内面にヘラケズリ調整を施し、外面にはナデ調整を施している。口縁部は内湾しながら立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。3は双耳壺の把手で、内面にナデ調整を施し、外面には磨消縄文を施している。把手には穿孔が施されている。柳浦俊一氏の五明田式の遺物と考えられる。4は内面に2枚貝条痕を施し、外面には2枚貝条痕の後ナデ調整を施している。5は土製円盤で、縄文土器片を丸く加工し円盤状にしている。6は底部で、内外面ともにナデ調整を施しているものと考えられる。外面には指頭圧痕も残る。



第162図 第⑦層出土遺物1



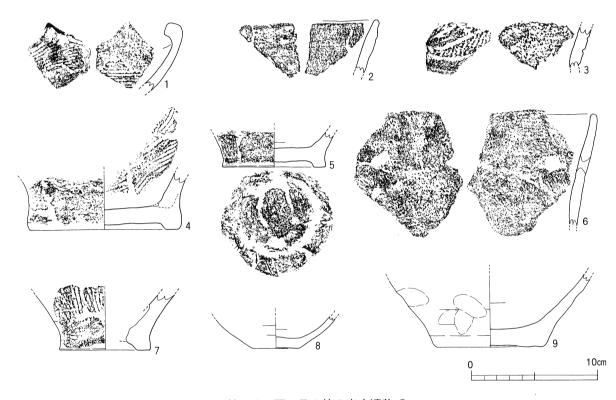
第163図 第⑦層出土遺物2

第163 図1~13 は縄文土器である。1 は内面に2 枚貝条痕を施し、外面に磨消縄文を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦気味に仕上げている。断面に粘土の接合痕が残る。2 は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦気味にして内側にやや突出させている。3 は内外面ともに2 枚貝条痕を施す。断面に粘土の接合痕が残る。4 は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に2 枚貝条痕を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部を平坦気味にして内側にやや突出させている。5 は内面及び口縁部外面にナデ調整を施し、体部外面にはヘラミガキ調整を施している。口縁部は内湾気味に立ち上がり、やや肥厚させて端部を尖り気味に仕上げている。穿孔が施されている。6 は底部で、外面にナデ調整を施した後、指頭圧痕を施している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。7 は内面に2 枚貝条痕を施し、外面に磨

消縄文を施す。柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。8 は底部で、内外面及び底部に2枚貝条痕を残す。底部は高台にしている。9 は内面にヘラミガキ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。立ち上がりは外方に直線的に伸び、内側にかえり状の痕跡を残す。口縁部に筒状のものが付くタイプで、柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。10 は底部で、内面にナデ調整を施している。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。11 は内面にナデ調整を施し、外面に磨消縄文を施す。12~13 は土製円盤で、2 点とも縄文土器片を丸く加工し円盤状にしている。13 は表面にヘラミガキ調整の痕跡が残る。

第164~165 図は⑥層以下の出土遺物で、その大半は⑦層の出土遺物と考えられる。

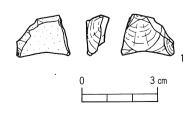
第164図1~6は縄文土器である。1は内外面ともに2枚貝条痕を施す。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部に突起物を作っている。柳浦氏の五明田式の遺物と考えられる。2は内外面ともにナ



第164図 その他の出土遺物3

デ調整を施す。口縁部は外方に直線的に立ち上がり、端部を丸く仕上げている。3 は外面に磨消縄文を施す。 $4\sim5$  は底部である。4 は内面に2 枚貝条痕を施し、外面にナデ調整の後指頭圧痕を施す。底部は高台にしている。断面に粘土の接合痕を残す。5 は内面にナデ調整を施し、外面にヘラミガ

キ調整を施す。立ち上がりは外方に直線的に立ち上がる。底部は高台としている。6は風化が著しいが、外面には2枚貝条痕が施されていた可能性がある。口縁部は外反気味に立ち上がった後、内側に若干折り返す。端部は丸く仕上げている。7~9は弥生土器である。7は外面にハケ目調整を施し、底部付近ではナデ調整を施している。立ち上がりは外反気味に立ち



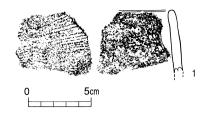
第165図 その他の出土遺物4

上がり、底部は高台としている。8は立ち上がりは内湾気味に立ち上がる。底部に平坦面を作っている。9は風化が著しいが、外面に指頭圧痕が残る。底部に平坦面を作っている。

第 165 図は石器の未製品で、黒曜石のものである。

<その他の遺物5>(第169図)

第166 図は⑦層上面から出土した縄文土器で、外面に2枚貝 条痕が残る。口縁部端部は丸く仕上げている。



第 166 図 その他の出土遺物 5

## 第3節 まとめ

調査地は築山遺跡の東端部にあたり、旧大井谷川の西岸に営まれた生活跡である。今回の調査では、中近世を中心として、奈良平安時代、古墳時代後期~終末、弥生時代後期、弥生時代前期、縄 文時代後晩期と非常に幅広い時期の遺構・遺物が確認された。縄文後晩期については包含層のみの 確認であったが、その他の時期については遺構も確認されている。

遺構は溝・土壙・小ピット等が大部分で、その多くが中近世の時期にあたるものである。弥生~ 古代にかけての遺構は非常に少ないが、弥生時代以降の基盤層が比較的高いため後世の破壊が繰り 返された結果であろう。

各時期の概要は以下のとおりである。

## <縄文時代後期~晩期>

遺構は確認されておらず、包含層より土器や石器が確認されるのみである。縄文時代の資料は市内では三田谷 I 遺跡、保知石遺跡等でわずかに知られるのみであり貴重な資料といえる。平成 15 年度に実施した県道出雲三刀屋線に伴う隣接地の発掘調査では、より良好な縄文土器資料が得られており、今後の整理が待たれる。

包含層最下部付近では埋没林が確認され、当時の環境が森林であったことがわかる。本来の生活 地の位置は不明であるが、調査地南側の丘陵地もしくは丘陵谷部に存在したものであろう。

また、包含層最下部ではC 14 年代測定も実施しており、約 3700 年前から堆積した土層である事が 判明している。縄文時代後期頃の実年代として矛盾ないものと考える。

#### <弥生時代>

縄文晩期から弥生時代前期にかけて厚い砂層の堆積がみられ、この頃に大規模な洪水等による地 形の変化があったものと考えられる。

比較的地形の低い調査地東方に溝・土壙等の遺構が少量確認される。本来調査地の西方にも遺構 は存在したであろうが、中世までに掘平を受けたものと考えられる。

遺構と遺物は弥生前期と後期のものが確認されており、弥生中期のものは全く確認されていない。 <古墳時代後期~古代>

明確に当該時期の遺構と判断できるものは僅少で、わずかにⅡ区SK 09 などが挙げられる。やはり中世までに削平を受けたものであろう。遺物としては古墳時代後期後半から平安時代までの遺物が調査区全般から出土しており、当該時期に調査地周辺で生活が営まれていた事がうかがえる。古墳時代前・中期の遺物が全く出土していないことも特徴として挙げられる。

また、包含層出土遺物中には円筒埴輪や子持壷などの後期古墳関係遺物が散在しており、付近に破壊された古墳等が存在したと考えられよう。Ⅱ区SK 09 も墓壙である可能性があり、平成 15 年度に実施した県道今市古志線に伴う発掘調査でも隣接地で土壙内より奈良時代の骨蔵須恵器が確認されている。当該時期の調査地は墓域としての性格を持っていた可能性がある。

#### <中世>

今回の調査地において、近世とともに遺跡の中心を成す時期である。調査地西方を中心に比較的多くの溝・土壙・ピット等の遺構が確認される。ただし、遺構内からの遺物は極めて僅少で、生活の中心地であったとは考え難い。土質分析の結果、14~15世紀頃には調査地の一部でソバ栽培が行われていた可能性が高く、耕作等に伴う遺構群としての性格も考えられよう。ただし、I区の北端部分では大形の溝や土壙が密集しており、遺構内遺物も他と比して多い。当時の生活区画の一部であろうか。

その他、近世の包含層中からではあるが、塩冶氏家紋入りの漆器椀が出土しており、塩冶氏関連の 実物資料として注目される。

#### <近世>

中世に引き続き、多くの溝・土壙・ピット等の遺構が確認される。やはり遺構内からの遺物は少なく、中世と同様の性格をもった遺構群と考えられる。土質分析の結果、18世紀以降の堆積土からは稲花粉が多量に検出されており、畑作とともに水田耕作が盛行していたことがうかがえる。

以上のような調査結果から、調査地は生活の中心部ではないものの、縄文時代晩期から近世に至るまで断続的に生活空間として利用された市内では希少な遺跡であることが判明した。今回の調査では遺構に伴う遺物が非常に少なく、遺跡の性格検討としても大雑把なものにならざるを得なかった。

しかしながら、平成 15 年度以降、県道出雲三刀屋線に伴う発掘調査と県道今市古志線に伴う発掘 調査によって徐々に今回の調査地周辺の遺跡概要が明らかになりつつある。調査は今後も継続予定 であり、遺跡中心部の実態解明を期待したい。

### 築山遺跡における自然科学分析

渡辺正巳(文化財調査コンサルタント株式会社)

### はじめに

築山遺跡は島根県出雲市上塩冶町地内に立地する遺跡である。

また本報は、出雲市(出雲市文化財室)が文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した 分析報告書の概報である。

### 分析試料について

図1に示す各地点において試料を採取した。各地点の堆積相および試料採取層準は、図2~6の花粉ダイアグラム中左側の柱状図に示すとおりである。また、No.1 地点において火山灰質の砂層に被われた埋没樹木を $C^{14}$ 年代測定試料とした。No.1 地点の花粉分析試料は、この埋没樹木の根元より採取した腐植質粘土である。

### 分析方法および分析結果

### (1) 花粉分析

処理は渡辺(1995)に従って行った。プレパラートの観察・同定は、光学顕微鏡により通常 400 倍で、必要に応じ 600 倍あるいは 1000 倍を用いて行った。花粉分析では原則的に木本花粉総数が 200 個体以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また、イネ科花粉を中村(1974)に従い、イネを含む可能性の高い大型のイネ科(40 ミクロン以上)と、イネを含む可能性の低い小型のイネ科(40 ミクロン未満)に細分している。

分析結果を図2~6の花粉ダイアグラムに示す。花粉ダイアグラムでは木本花粉総数を基数として各分類群毎に百分率を算出し、木本花粉を黒塗りスペクトルで、草本花粉を白抜きスペクトルで示した。また検出数の少ない試料では、出現した種類と「\*」で示した。右端の花粉総合ダイアグラムでは木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基数として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

### (2) C<sup>14</sup> 年代測定

AMS法を用いた。測定結果を表1に示す。

### 花粉分带

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では 花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料Noも下位から上位に向 かって記した。

### (1) IV帯 (No.1 地点試料No.1)

アカガシ亜属、マツ属(複維管束亜属)が卓越し、スギ属、マキ属を特徴的に伴う。

- (2) Ⅲ帯 (No 3 地点試料No 4、3、No 5 地点試料No 4)
- マツ属(複維管束亜属)、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属が卓越する。
- (3) Ⅱ帯 (No 3 地点試料No 2、1、No 4 地点試料No 3、No 5 地点試料No 3、2)
- マツ属(複維管束亜属)が卓越し、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。
- (4) I 带 (No. 4 地点試料No. 1、No. 5 地点試料No. 1)
- マツ属(複維管束亜属)が卓越し、スギ属を伴う。
- 各地点毎に花粉帯と堆積時期をまとめると表2の様になり、ほとんど矛盾の無い結果を示す。

### 近隣の花粉分析結果との比較

築山遺跡近辺の三田谷 I 遺跡、藤ヶ森南遺跡では、従来より花粉分析が実施・報告されている(渡辺、2000、中村・渡辺、2000、渡辺、1999、)。

各遺跡で設定された局地花粉帯と今回設定した局地花粉帯の関係は、表3のようにまとめることができる。表2から明らかなように、各遺跡間での局地花粉帯の変遷(花粉組成変遷)は、よく一致した。

### 古環境変遷

ここでは、諸分析結果より推定できる古環境について、花粉帯毎に述べる。

(1) Ⅳ帯期(縄文時代後期:3700年前頃)

前述、三田谷 I 遺跡での分析結果(中村・渡辺,2000)と極めて類似した花粉組成を示した。また、¼C年代、堆積相も三田谷 I 遺跡と類似している。三田谷 I 遺跡を埋めた埋没林を形成の原因となった洪水堆積物(B層)が、丘陵を回り込んだ築山遺跡にまで至り、No 1 地点で生育していた樹木を覆い埋没林を成したと考えられる。

また、No1地点の分析試料は腐植質粘土であり、湿地で堆積したものであると考えられる。樹種鑑定をしていないものの埋没樹木は湿生の樹木であると考えられる。これらの樹木の根本近くには、花粉の検出できたカヤツリグサ科や、イネ科の草本が生育していたと考えられる。

さらに花粉分析結果から明らかなように、背後の丘陵にはカシ類を要素とする照葉樹林が分布したと考えられる。また、丘陵の縁辺など開けた場所にはアカマツや、ナラ類を要素とする遷移林が分布していたと考えられる。

(2) Ⅲ帯期(弥生時代~中世頃)

地層が薄く、断続的な花粉組成しか得られなかったことから、推定される時代幅が広がった。

No.3地点では中世および中世〜近世に堆積した層準、No.5地点では弥生時代頃に堆積した可能性のある層準が分析対象であった。ここでは土壌化、あるいは鉄分の沈着に伴う化学変化のために花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなったと考えられる。このためイネ科( $40 \ge 2$  ロン以上)の出現率は高いものの、イネ科( $40 \ge 2$  ロン未満)や、キク科花粉、胞子の検出量も多く、この地点が水田であったか否かの判断はできなかった。ただし、No.3地点からはソバ属花粉が検出されており、近辺で畑作が行われていた可能性は高い。

一方木本花粉では、両地点共にマツ属(複維管東亜属)、スギ属のほかアカガシ亜属、コナラ亜属が卓越傾向にあり、遺跡近辺の丘陵では、アカマツやコナラを主要素とする遷移林(二次林あるいは「里山」)が広がり、やや離れた丘陵や中国山地縁辺にはカシ類を要素とする照葉樹林が分布していたと推定できる。また遺跡近辺の谷沿い斜面には、スギも生育していたと考えられる。

### (3) Ⅱ帯期(近世から近代頃?)

No.4 地点では鉄分の沈着に伴う化学変化のため花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなったと考えられる。No.3,5 地点のいずれの試料からも充分な量の花粉化石が検出され、イネ科 (40 ミクロン以上) 花粉が高率で検出される。また、他の草本花粉の出現率はさほど高率にならず、水田雑草を含む種類の花粉やソバ属花粉が検出されるなど、遺跡一帯に水田が広がっていたことが推定される。

また木本花粉ではマツ属 (複維管束亜属) 花粉が卓越しコナラ属を伴うなど、アカマツやナラ類を主要とする「里山」が、丘陵から中国山地縁辺に分布していたことが推定できる。

### (4) I 帯期(近・現代)

No.4 地点では鉄分の沈着に伴う化学変化のため花粉化石が解け、花粉化石の含有量が少なくなったと考えられる。No.5 地点では充分な量の花粉化石が検出され、イネ科(40 ミクロン以上)花粉が高率で検出される。一方、Ⅱ帯に比べ他の草本花粉の出現率は、水田雑草を含む種類の花粉やソバ属花粉を含め低くなる。この様な草本花粉の変遷は、農作業の近代化に伴う除草作業の徹底や、雑穀栽培が衰退し米作主体の農業に転換したことが原因であると推定される。

また木本花粉では、Ⅱ帯に比べスギ花粉の増加が顕著である。このことは、近代以降特に第二次 大戦後のスギ植林や、いわゆる「燃料革命」による「里山」の放棄などが主な原因であると考えら れる。

### まとめ

花粉分析結果から、 $I \sim \mathbb{N}$ 帯の4局地花粉帯を設定した。さらに周辺諸遺跡での花粉分析結果(局地花粉帯)との比較を行い、花粉組成変遷とその表す時代との関係がよく一致することが明らかになった。

花粉分析結果を基に遺跡近辺から周辺の古植生を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

- ①埋没樹木(埋没林)は、三田谷 I 遺跡で発見された埋没林と同時期のものであり、成因も共通する可能性がある。
- ②No 3 地点では、Ⅲ帯期(中世)にソバ栽培が行われていたと考えられる。
- ③水田耕作が断定できるのは、No.5地点II帯期(中~近世)以降である。

### 引用文献

中村 純 (1974) イネ科花粉について、とくにイネを中心として、 第四紀研究、 13, 187-197.

渡辺正巳(1995) 花粉分析法. 考古資料分析法, 84, 85. ニュー・サイエンス社

渡辺正巳(1999)藤ヶ森南遺跡の花粉、プラント・オパール分析、出雲郵便局移転に伴う埋蔵文化

財発掘調査報告書藤ヶ森南遺跡、31-37、中国郵政局・出雲市教育委員会、島根県.

渡辺正巳 (2000) 三田谷 I 遺跡c区発掘調査に係る花粉分析.塩冶 299 号線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書三田谷 I 遺跡,65-70,出雲市教育委員会,島根県.

中村唯史・渡辺正巳 (2000) 三田谷 I 遺跡の地下層序と地形発達史. 斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書〒三田谷 I 遺跡 (Vol. 2) -, 116 - 127, 建設省中国地方建設局出雲工事事務所・島根県教育委員会.

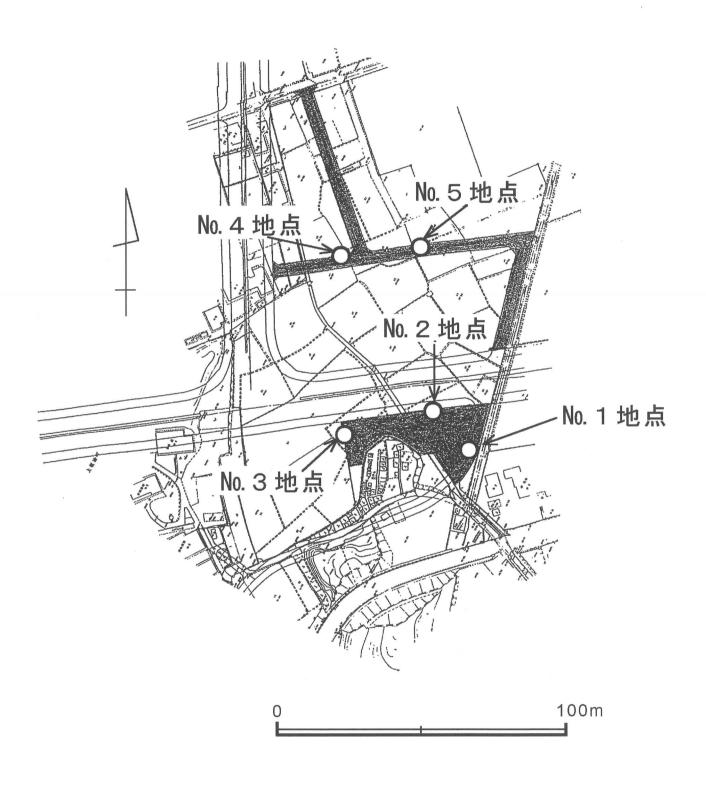


図 1 試料採取地点

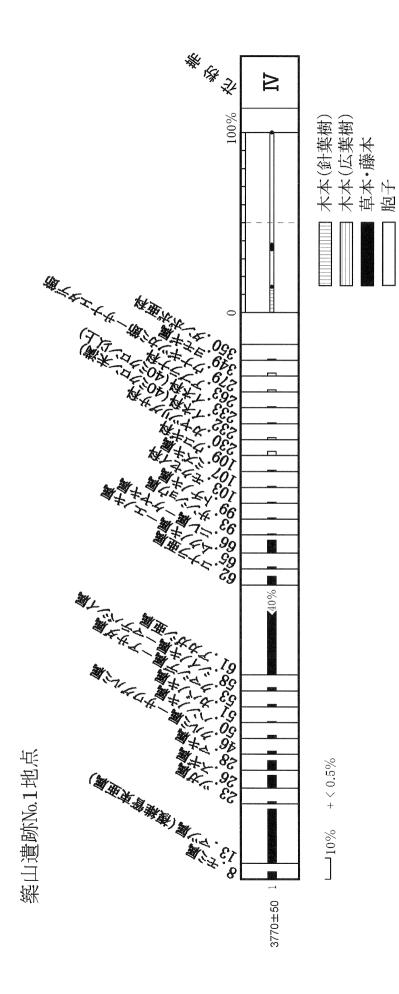


図2 第1地点の花粉ダイアグラム

### 築山遺跡No.2地点

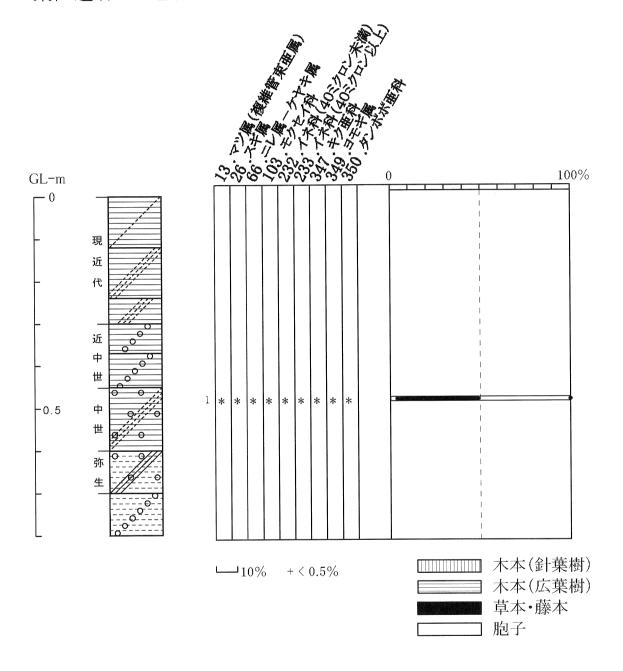


図3 第2地点の花粉ダイアグラム

図4 第3地点の花粉ダイアグラム

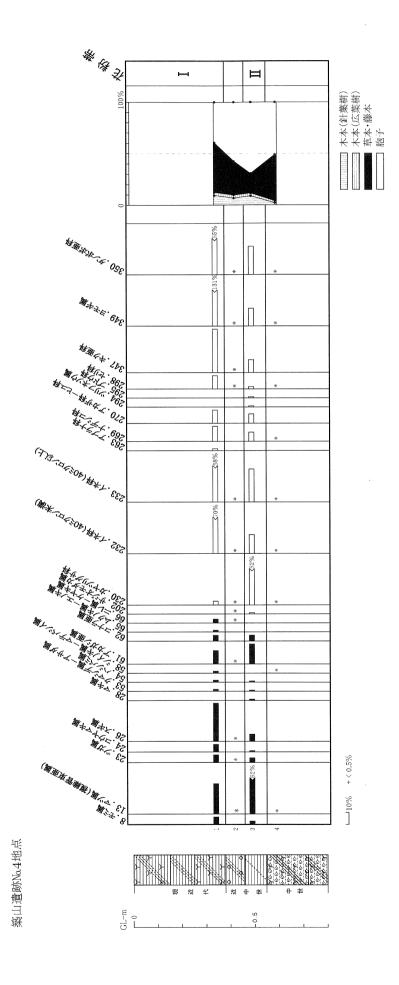


図 6 第5地点の花粉ダイアグラム

t				
t	No. 4 地点			
t	No. 3 地点			
t	No. 2 地点			
t	No. 1 地点			
t	*	1		囙
t	虚	Й	7	川
t 513C 補正14C (%) (yBP) (yBP) (200 3690±50	測定番号	(Beta-)	170701	0 / 00 / -
t 513C (%) (%) 50 - 30.0	暦年代*1	(cal y.)	AD2210	$\sim 1940$
4 _ Q	補正14C	(yBP)		00 H 000
£ (c)	Ø 13C	(%)	C	0.05
測定年代 (yBP) 3770±5	測定年代	(yBP)	- - 1	3//0H20
武将No  T — 01	1	II 74 No.	<u>-</u>	_   

## \*1:2 sigma,95%probability

囙

弥 生 ? 縄文時代後期

日 烷

## 表 1 C年代測定結果

# 表2 各調査地点での花粉帯とその時代

舥

N

雏

花粉帯 I 帯

No. 5 地点

舥

Ш

	築山遺跡	田田	田田	藤ケ森南	林 紫 輔 伊 華 菱
		渡辺 (2000)	中村·渡辺 (2000)	渡辺 (1999)	בין כי נון נאן
<u> </u>	Ι	Ι			マツ属(複維管束亜属)卓越・スギ付随
近 . 現 仁	F		F	Ш	二沙属 (指继符中开居) 占封
近世	=	ס =	П	П	イノ高(攻作自光井)4-1位
申		I a		٠	2378 (冶雑等中田属) レナデシー アナボシー 日一一田 国 八 日 一 日 一 日 三 日 三 日 三 日 三 日 三 日 三 日 三 日 三
		E		П	
HI F			Ħ		
古横					(マツ属(複維管束亜属)増加、他は減少傾向)
弥 生 ?					
縄文時代後期	IV		Ш		アカガシ属卓越
縄文時代中期以前			IV		マツ属(複維管束亜属)、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属、ムクノキ属 -エノキ属、ニレ属-ケヤキ属が高率

表3築山遺跡の周知花粉帯の遺跡での極地花粉帯との関係

### 築山遺跡(I区)遺物観察表

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備考
99-1	SD01	弥生土器 無頸壺	不明	風化	2mm大の砂 粒多く含む	軟質	淡橙褐色~淡 黄褐色	口縁下部貼付突帯
-2	SD01	弥生土器壺	不明	外面:ミガキ 内面:口縁ナデ、体部ミガ キ	2~3mm大 の砂粒多く含 む	軟質	黄褐色	頸部境界に明瞭な 段
-3	SD04	弥生土器壺 or 甕	不明	風化	2~3mm大 の砂粒多く含 む	軟質	外面:暗橙褐色	
-4	SD05	弥生土器甕	不明	外面:ナデ 内面:口縁ナデ、体部ハ ケ	2~3mm大 の砂粒多<含 む	軟質	褐灰色	頸部下に直線文の 痕跡
-5	SD11	土師器坏	口径:(11.6) 底径:(5) 器高:3	外面:強いナデ 内面:風化 底部:回転糸切	密	軟質	淡黄褐色	
-6	SD11	土師器坏	底径:4.8	風化	密	軟質	淡橙褐色~淡 黄褐色	
-7	SD11	土師器坏	底径:(4.6)	風化	密	軟質	淡橙褐色	
-8	SD11	土師器小皿	口径:(7) 底径:3.8 器高:2	風化	密	軟質	淡黄褐色	
-9	SK 06	土師器坏	口径:(146) 底径:(7.2) 器高:3.6	外面:強いナデ 内面:強いナデ 底部:回転糸切(風化)	2mm以下の 砂粒含む	良	淡橙褐色	
-10	SK 06	陶器小壺?	底径:6	全面施釉	2~3mm大 の砂粒わず かに含む	良	断面:赤橙色~ 灰褐色 施釉:褐色	備前系
-11	SK 06	陶器甕	不明	外面:施釉 内面:ナデ	2mm以下の 砂粒含む	良	外面:淡青灰色 内面:暗青灰色 施釉:暗緑色	瓷器系
-12	SK 08	土師器坏	口径:(11.8) 底径:5.2 器高:3.4	外面:強いナデ 内面:強いナデ 底部:回転糸切	密	良	赤橙褐色~褐灰色	
-13	SK 10	土師器坏	口径:(11.2) 底径:(5.4) 器高:3	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	軟質	淡橙褐色	
-14	SK 10	土師器小皿	口径:(7.8) 底径:(4.2) 器高:1.6	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	良	淡橙褐色	
<del>-</del> 15	SK 10	土師器小	皿 口径:(6.4) 底径:(2.8) 器高:1.8	風化	密	良	淡橙褐色	
-16	SK 10	土師器坏	不明	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	良	淡黄褐色	
-17	SK 10	土師器小皿	底径:2.2	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:糸切	密	良	淡赤橙色	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備考
-18	SK 14	土師器 柱状高台皿	底径:5	外面:風化(ハケ状工具痕) 内面:ナデ 底部:回転糸切	密	良	淡赤橙色	
-19	SK 14	土師器小皿	口径:7 底径:3.4 器高:2	風化 底面:わずかに糸切の痕 跡	密	軟質	淡橙褐色~淡 黄褐色	
-20	SX 01	漆器椀	口径:(15.2) 底径:8.4 器高:5.8	総黒色漆塗(底部除く) 朱漆の漆絵「鶴?」	_	_		炭粉渋下地、透明 漆1層 樹種:トチノキ
100-1	A 2Gr 包含層 5A 層	弥生土器甕	不明	風化	2mm以下の 砂粒多く含む	軟質	淡黄褐色	
-2	A2Gr 包含層 5A 層	弥生土器甕	不明	風化	2mm以下の 砂粒多く含む	軟質	淡黄褐色	頸部下にヘラ状工 具による区画線
-3	A2Gr 包含層 5A 層	磨製石器石 斧	幅:5.8 厚:2.4	-	_	<del>-</del>	_	
101-1	B18Gr 包含層 5B~C層	弥生土器甕	口径:(22)	外面:風化(体部にハケの 痕跡) 内面:風化(体部にケズリ の痕跡)	2mm以下の 砂粒少量含 む	良	橙褐色	
-2	B24Gr 包含層 5B~C層	弥生土器甕	不明	外面:ナデ 内面:口縁ナデ、体部ケ ズリ	密	良	黄褐色	
-3	B25Gr 包含層 5C層	須恵器 坏蓋	口径:(14.8) 器高:2.2	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	暗青灰色~灰 色	輪状つまみ
-4	B15Gr 包含層 5B層	須恵器坏	底径:(3.6)	外面:ナデ 内面:ナデ 底部:糸切後ナデ	密	良	青灰色	
-5	B23Gr 包含層 5C層	土師器坏	口径:13.4 底径:6.2 器高:3.6	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
-6	B24Gr 包含層 5C層	土師器坏	口径:11 底径:4.8 器高:2.8	風化	密	軟質	淡橙褐色	
-7	B23Gr 包含層 5C層	土師器坏	底径:7	風化(底部糸切の痕跡)	密	良	橙褐色~褐灰 色	
-8	B24G 包含層 5C層	土師器皿	口径:(11) 底径:(5.6) 器高:2.4	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
-9	B24 Gr 包含層 5 C層	土師器小皿	口径:(7.4) 底径:4 器高:1.8	風化(底部糸切の痕跡)	密	軟質	淡橙褐色	
102-1	B17Gr 包含層 4層	· 弥生土器	不明	風化	2mm以下の 砂粒少量含 む	良	黄褐色	
-2	B12Gr 包含層 4層	弥生土器壺 or 甕	底径:(10)	風化	2~3mm大 の砂粒多く含 む	軟質	橙褐色~淡黄 褐色	
-3		須恵器坏蓋	口径:13以上	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	淡青灰色	宝珠つまみ

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備考
-4	C8Gr 包含層	須恵器蓋坏	受部径:(13)	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	灰色~淡灰色	
	4層							
	C16Gr	須恵器坏	口径:(13.4)	外面:ナデ	密	良	青灰色~暗青	
	包含層			内面:ナデ			灰色	
	4層							
-6	C2Gr	須恵器盤?	底径:(12.4)	外面:ナデ	密	良	淡灰色	
	包含層			内面:ナデ				
	4層			底部:ナデ				
-7	A3Gr	須恵器子持	口径:(10.2)	外面:ナデ	密	良	暗青灰色~灰	同形態の子持壷
	包含層	壺子壺?		内面:ナデ			白色	壷が調査地西方
	4層							築山古墳より出土
-8	C10Gr	土師器坏	口径:(12.8)	外面:ナデ	密	良	淡黄褐色	
	包含層			内面:ナデ				
	4層							
-9	C5Gr	土師器坏	底径:6	外面:風化	2mm以下の	良	橙褐色~暗赤	
	包含層			内面:ナデ	砂粒含む		褐色	
	4層			底部:回転糸切				
-10	C 15 G r	土師器小皿	口径:(7.5)	風化	密	軟質	淡黄褐色	
	包含層		底径:(4)					
	4層		器高:1.7					
-11	C16GR	土師器小皿	口径:(7)	外面:風化	密	良	橙褐色~褐灰	
	包含層		底径:3.4	内面:ナデ			色	
	4層		器高:1.8	底部:風化(糸切の痕跡)				
-12	C 16 G r	土師質土器	口径:(7)	外面:ナデ	密	良	橙色	
	包含層	灯明皿	底径:5	内面:ナデ				
	4層		器高:1.5	底部:風化(静止糸切?)				
<b>-13</b>	包含層	青磁折縁皿	不明	全面施釉	密	良	断面:灰白色	
	4層			1			施釉:乳緑色	
- 14	包含層	陶胎染付椀	不明	全面施釉	密	良	断面:淡灰色	
	4層			植物様の染付			施釉:淡乳緑色	
1.5	力会员	LL, 267 1/4 BB	F14₹+0.4	\ <u>~</u>	ote:	<u>.</u>	wr	
-15	包含層 4層	灰釉陶器 花瓶?	口径:3.4	全面施釉	密	良	断面:灰白色 施釉:淡乳緑色	
	4/管	16704:					旭州, 灰孔脉巴	
-16	包含層	白磁四耳壷	不明	全面施釉	密	良	断面:白色	
10	4層	口拟四千里	1 2 2	主 四 / 图 / 四	ш	R	断曲·口已   施釉:淡白色	
	1/10						//E/II. (X L) C	
-17	包含層	   陶器甕	不明	外面:施釉、格子タタキ	2~3mm大	良	   淡灰色~暗灰色	瓷器系
	4層	Da, nn ear	1 73	内面:ナデ	の砂粒含む		施釉:暗緑色	12花弁のスタンプ
				1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	19,1210		28,14,14,14,15	12 (2)
-18	包含層	陶器擂鉢	不明	外面:ナデ	2~3mm大	良	灰色~淡灰色	擂目6条以上1
	4層	1.0 88 58 51	1 / 2	内面:ナデ、擂目	の砂粒少量		7.63 565.63	位
					含む			,
-19	包含層	陶器擂鉢	不明	風化	密	軟質	淡橙色	擂目3条1単位
	4層			内面:ハケ、擂目				, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
-20	包含層	漆器小椀	口径:(8.4)	外黒内赤色漆塗	_	_	_	炭粉渋下地、外
	4層		底径:4.2	金属粉の蒔絵「花輪違				透明漆1層 内面赤漆(ベンガ
			器高:3.3	紋」と見られる家紋				炭粉渋下地、外 透明漆1層 内面赤漆(ベンガ 混和)1層 樹種:ブナ属
-21	包含層	製塩土器	不明	風化	2mm大の砂	軟質	淡黄褐色~淡	
	4層				粒多く含む		赤橙褐色	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎土	焼 成	色 調	備考
-22	B12Gr 包含層 4層	管状土錘	- 長さ:4.5以上 厚さ:1.6	風化	2mm以下の 砂粒含む	軟質	淡黄褐色	
-23	B10Gr 包含層 4層	管状土錘	長さ:4.3以上 厚さ:1.3	風化	2mm以下の 砂粒少量含 む	軟質	淡橙褐色	
-2	4 B10Gr 包含層 4層	管状土錘	長さ:4.5 厚さ:1.5	風化	2mm以下の 砂粒少量含 む	軟質	淡橙褐色	
-25	B13Gr 包含層 4層	管状土錘	長さ:3.5以上 厚さ:9	風化	2mm以下の 砂粒少量含 む	良	赤橙色	
-26	C9Gr 包含層 4層	管状土錘	長さ:4.1以上 厚さ:1.5	風化	密	軟質	淡黄褐色	
-27	C5Gr 包含層 4層	管状土錘	長さ:4.5 厚さ:1.3	風化	2mm以下の 砂粒含む	軟質	淡黄褐色	
-28	C9G r 包含層 4層	管状土錘	長さ:3.7以上 厚さ:1.4	風化	2mm以下の 砂粒少量含 む	軟質	淡黄褐色	
-29	C16Gr 包含層 4層	古瓦	厚さ:2~1.5	外面:縄目痕 内面:布目痕 側面:端部へ向けでケズリ	2~3mm大 の砂粒含む	良	淡青灰色~灰色	端部に沈線、板目 痕あり
-30	A5Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2mm大の砂 粒含む	良	内外面:橙色 断面:灰色	
-31	A4Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	外面:ヨコハケ 内面:風化	2mm大の砂 粒含む	良	内外面:橙色 断面:暗灰色	円形スカシ
-32	A2Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2~3mm大 の砂粒含む	軟質	黄褐色	
-33	C4Gr 包含層 4層	円筒埴輪	不明	風化	2mm大の砂 粒含む	軟質	橙褐色	底部調整
-34	B11Gr 包含層 4層	石製品硯?	不明	_	_	_	_	用途不明 泥岩
-35	A5Gr 包含層 4層	鉄製品	幅:1.3~0.7	_		_	_	用途不明 長さ14cm 程度の釼 板を屈曲させて製作
-36	B10Gr 包含層 4~5層	鉄製品 刀子?	長:3.5以上 幅:1.2	_		_	_	-37と同一個体?
-37	B10G r 包含層 4~5層	鉄製品 刀子?	長:8以上幅:1.8	_		_		-36と同一個体?
-38	A4Gr 包含層 4層	古銭	径:2.5	_	_			「元祐通寶」
-39	包含層 4層	古銭	径:2.	_	_	_	_	「開元通寶」

築山遺跡(Ⅱ区)遺物観察表

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎土	焼 成	色 調	備考
120-1	SD12	弥生土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	2mm未満の砂	軟	外面:灰橙色	
	B1Gr	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混		内面:淡灰橙色	
			底径:(7.8)		入			
121-1	SD 09	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	1mm以下の砂	軟	外面:暗橙灰色	・口縁部端部に刻目文
	D2Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒混入		内面:黄灰色	・断面に粘土の接合痕
			底径:不明	底部:不明				
-2	SD 09	弥生土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	2mm程度の砂	やや軟	橙灰色	
	B2Gr	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混			
			底径:8.0		入			
-3	SD09	弥生土器	口径:(20.1)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	明黄灰色	・口縁部に9条以」
	C2Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ、ヘラケズリ	粒混入			の擬凹線
			底径:不明	底部:不明				
- 4	SD 09	弥生土器	口径:(22.2)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:暗黄橙色	・口縁部に8条の排
_	C2Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ、ヘラケズリ	粒混入		内面:黄白色	凹線
			底径:不明	底部:不明				
124-1	SK 01	土師質土器	口径:不明	外面:不明	密	軟	外面:暗淡橙色	
	A2Gr	坏	器高:不明	内面:不明			内面:淡橙色	
			底径:不明	底部:不明				
125 – 1	SK 02	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:淡黄橙色	
	B3Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:橙灰色	
			底径:不明	底部:不明	入			
-2	SK 02	土師器	口径:(8.6)	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:黄灰色	
2	B3Gr	壺	器高:不明	内面:ナデ、ヘラケズリ	粒混入		内面:明黄灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-3	SK 02	土師器	口径:(11.0)	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	淡黄白色	
Ü	B3Gr	坏	器高:不明	   内面:ナデ	粒混入			
			底径:不明	底部:ナデ				
129-1	SD11	縄文土器	口径:不明	外面:不明	1mm以下の砂	軟	外面:橙灰色	・口縁部外面に刻目
120 1	F3Gr	1000	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:灰橙色	突带貼付
			底径:不明	底部:不明	入			
-2	SD11	縄文土器	口径:不明	外面:不明	2mm以下の砂	軟	外面:暗淡橙色	・口縁部外面に突
_	F3Gr	1.05	器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:淡橙色	貼付
			底径:不明	底部:不明	入			
-3	SD11	縄文土器	口径:不明	外面:不明	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	・口縁部に刻目文
	F4Gr	, =,	器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:明黄灰色	
				底径:不明	入		底部:不明	
-4	SD11	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:灰橙色	・口縁部外面に突
	F3Gr		器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:淡灰橙色	貼付
			底径:不明	底部:不明	入			
- 5	SD11	弥生土器	口径:不明	外面:不明	2mm以下の砂	軟	外面:褐色	
· ·	H3Gr	77	器高:不明	内面:不明	粒混入		内面:暗黄橙色	
			底径:不明	底部:不明				
	SD11	弥生土器	口径:不明	   外面:ナデ	1~3mmの砂	軟	外面:暗淡黄色	
0	H3Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:暗黄色	
			底径:(8.4)		入			
-7	SD11	弥生土器	口径:不明	外面:不明	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
•	H3Gr	変	器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:淡黄色	
			底径:(7.0)		入		(一部橙色暗褐色)	
-8	SD11	- 弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡黄橙色	・脚台部外面に
0	A2Gr	器台	器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混		内面:淡橙色	条以上の擬凹線
			底径:(16.0)		入			
-9	SD11	弥生土器	口径:不明	   外面:ナデ	1~3mmの砂	やや軟	外面:淡橙色	
9	H3Gr	一	器高:不明	内面:不明	粒多量に混	1 77	内面:黄灰色	
	11001	JAL .	底径:(9.5)	, , , , , , , , ,	入			

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色 調	備考
126 – 10	SD11	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	1mm未満の砂	やや軟	外面:暗淡橙色	<ul><li>・外面に1条の凹線</li></ul>
	A3Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:黄橙色	
			底径:不明	底部:不明				
-11	SD11	土師器	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	やや軟	外面:淡黄灰色	
	F4Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		(口縁部褐色)	
			底径:不明	底部:不明	入			
-12	SD11	須恵器	口径:不明	外面:平行タタキ、カキ目	密	良	青灰色	
	H3Gr	甕	器高:不明	内面:青海波				
			底径:不明	底部:不明				
127 – 1	SK 06	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:暗黄灰色	・口縁部外面に突帯
	B3Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:褐色	貼付
			底径:不明	底部:不明	入			
128-1	SD06	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	4mm以下の砂	軟	外面:暗黄褐色	・体部外面に7条の
	D5Gr	甕	器高:不明	内面:不明	粒多量に混		(一部黄褐色)	ヘラ描き直線文
			底径:不明	底部:不明	入		内面:黄灰色	
- 2	SD06	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	密	軟	外面:淡橙色	
	F3Gr	壺	器高:不明	内面:指頭圧痕			内面:灰橙色	
			底径:不明	底部:不明			(一部褐色)	
-3	SD06	須恵器	口径:(17.2)	外面:回転ナデ	密	良	外面:茶褐色	
	B6Gr	甕	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:灰褐色	
			底径:不明	底部:不明				
-4	SD06	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗灰色	
	B6Gr	高坏	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
			底径:(10.5)					
<b>-</b> 5	SD06	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	軟	灰色	
	B6Gr	ш	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
129-1	SD15	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:橙灰色	・口縁部外面に刻目
	F3Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:淡橙色	突带貼付
			底径:不明	底部:不明	入			
-2	SD15	土師器	口径:(14.8)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
	F3Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:暗褐色	
			底径:不明	底部:不明	入			
130-1	SD02	瓷器系陶器	口径:不明	外面:ナデ	密	良	外面:暗茶色	<ul><li>・外面及び断面に粘</li></ul>
	I4Gr	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ			内面:暗青灰色	土の接合痕
			底径:不明	底部:不明				
-2	SD02	在地土器捏	口径:不明	外面:不明	密	軟	外面:橙色、暗	
	I4Gr	鉢	器高:不明	内面:ナデ			赤褐色	
			底径:(10.8)		-		内面:淡橙色	
131-1	SD01	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	淡黄白色	
	H4Gr	蹇	器高:不明	内面:不明	粒混入			
			底径:(8.8)					
2	SD01	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	<ul><li>・口縁部端部に2条</li></ul>
	H4Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		(一部暗褐色)	の擬凹線
			底径:不明	底部:不明			内面:淡橙色	
3	SD01	土師器	口径:不明	外面:ナデ	1mm以下の砂	やや軟	褐灰色	
	H4Gr	高坏	器高:不明	内面:ハケ目	粒混入			
			底径:不明	底部:不明				
4	SD01	土師器	口径:不明	外面:ナデ	1mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
	H4Gr	低脚坏	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:淡灰橙色	
			底径:(4.0)	底部:ナデ				
5	SD01	土師器	口径:不明	外面:ハケ目	1mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	
	H4Gr	円筒埴輪	器高:不明	内面:ヘラミガキかヘラケズリ	粒混入		内面:暗橙灰色	
			底径:不明	底部:不明				

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
132 – 6	SD01	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	青灰色	
	H4Gr	甕	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
-7	SD01	須恵器	口径:(13.9)	外面:回転ナデ	密	良	青灰色	
	G4Gr	蓋	器高:不明	内面:回転ナデ				
-8	SD01	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	暗赤橙色	・底部に高台貼付
	G4Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:(7.8)	底部:回転ナデ				
<b>-</b> 9	SD01	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	軟	淡橙色	
	G4Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
133 – 1	SD 03	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	1mm未満の砂	やや軟	外面:淡黄色	
	F5Gr	蓋	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:明黄灰色	
			底径:不明					
-2	SD03	土師器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の	軟	淡橙色	
	D6Gr	低脚坏	器高:不明	内面:不明	砂粒混入			
			底径:不明	底部:ナデ				
-3	SD03	土師器	口径:(14.8)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡黄色	
	D5Gr	甕	器高:不明	内面:、ヘラケズリ、ナデ	粒混入		内面:黄灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-4	SD03	土師器	口径:不明	   外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	淡橙色	
-	H4Gr	円筒埴輪	器高:不明	内面:指頭圧痕	粒混入			
		1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	底径:不明	底部:不明	12.00			
——————————————————————————————————————	SD03	土師器	口径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ	3mm以下の砂	やや軟	橙色	
Ŭ	E5Gr	円筒埴輪	器高:不明	内面:不明	粒混入			
		1 1 1 2 1 1 1	底径:不明	底部:カット技法				
<u> </u>	SD03	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	軟	外面:橙色	
Ü	D5Gr	蓋	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:灰橙色	
	2001	l III.	底径:不明					
-7	SD 03	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	<ul><li>・破片の一部はSD</li></ul>
·	D5Gr	長頸瓶	器高:不明	内面:回転ナデ	H		内面:青灰色	04から出土
		742012	底径:不明	底部:不明				·体部径(17.2)
133 – 1	SD 04	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	軟	外面:橙色	
100 1	G4Gr	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ、ナデ	粒混入	177	内面:明黄灰色	
	0.101	1,50	底径:不明	底部:不明	1,32,1200		1,11,11,11,11	
-2	SD04	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	1mm未満の砂	軟	外面:淡黄橙色	
2	E6Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	粒少量混入	770	内面:淡橙色	
	2001		底径:不明	底部:回転糸切	127 2007		1,124.16(12.13)	
134 – 1	SD10	須恵器	口径:(16.8)	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	
104 1	C6Gr	甕	器高:不明	内面:回転ナデ	111	IX.	内面:暗青灰色	
	Codi	Jr.	底径:不明	底部:不明			110.41	
-2	SD10	須恵器	口径:(13.1)	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	
2	B6Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	14	IR.	内面:黄灰色	
	Dogi	1 21.	底径:不明	底部:不明			门圃.黄水已	
-3	SD 10	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:灰褐色	·体部径(14.0)
-3	B6Gr	須思奋 水注	器高:不明	内面:回転ナデ	111	I IX	内面:暗青灰色	M-017 (14.0)
	Dog	小江	(本高:不明 (本語:不明	底部:不明			1.1四.明月灰色	
A	SD 10	上 師 所 上 咖			密	軟	別面・淡生樫な	. 牡化古ム447の豆
- 4	SD10 C6Gr	土師質土器	口径:(10.8) 器高:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	,000°	料人	外面:淡黄橙色	・柱状高台付坏の可 能性あり
	CoGr	坏		内面・回転アア   底部:不明			内面:淡橙色	形性のリ
145 3	OK 13	6H 1 00	底径:不明		0	An A-+1	hl = . \\ \tau \chi \	- 43 An Li 273 - An
145 - 1	SK 11	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2㎜以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	・口縁部外面に刻
	F6Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:黒褐色	目突帯貼付
			底径:不明	底径:不明	入		底部:不明	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備考
136 - 1	SX 01	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	・底部にヘラ記号「メ」
	F6Gr	坏身	器高:不明	内面:回転ナデ、指頭圧痕、ナデ			内面:青灰色	・底部に格子状のヘラ記号
	:			底部:回転ヘラ切り				
137 – 1	SD08	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡黄橙色	<ul><li>・口縁部端部に3条</li></ul>
	C7Gr	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:淡橙色	の擬凹線
			底径:不明	底部:不明	入			
138-1	SD16	須恵器	口径:(11.5)	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	・底部に高台貼付
	B9Gr	坏	器高:4.0	内面:回転ナデ			(高台見込青灰色)	
			底径:(8.8)	底部:回転糸切			内面:青灰色	
-2	SD16	土師質土器	口径:不明	外面:不明	密	軟	黄灰色	
	B9Gr	坏	器高:不明	内面:不明				
			底径:不明	底部:不明				
140 - 1	SK 09	土師器	口径:12.6	外面:ナデ	2㎜以下の砂	やや軟	淡赤褐色	・内外面ともに赤彩
	B9Gr	坏	器高:5.4	内面:ナデ	粒混入			・内面見込に放射状
				底部:ヘラケズリ				の暗文
-2	K 09	土師器	口径:12.3	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	暗赤橙色	・内外面ともに赤彩
	B9Gr	坏	器高:5.4	内面:ナデ	粒混入			
				底部:ヘラケズリ				
141 - 1	SD20	土師器	口径:不明	外面:ハケ目	1mm以下の砂	やや軟	外面:赤橙色	・外面にタガの接合
	D8Gr	円筒埴輪	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:橙色	痕
			底径:不明	底部:不明				
-2	SD20	土師器	口径:不明	外面:ハケ目	2㎜以下の砂	やや軟	橙色	・外面にタガの接合痕
	C10Gr	円筒埴輪	器高:不明	内面:ナデ	粒混入			·断面に粘土の接合痕 
			底径:不明	底部:不明				
-3	SD20	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:黒褐色	・外面に波状文
	D8Gr	甕	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
			底径:不明	底部:不明				11
-4	SD 20	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	<ul><li>・外面に自然釉付着</li></ul>
	E7Gr	甕	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:暗褐色	
		I Ame III	底径:不明	底部:不明	0 117076	An An #1.	n立 #£ #76 /7	
-5	SD20	土師器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	2㎜以下の砂	やや軟	暗黄橙色	
	D9Gr	高坏	器高:不明	内面:不明   底部:ヘラミガキ	粒混入		(内面見込暗橙 色)	
	07000	1 47 00	底径:不明		4mm以下の砂	軟		
-6		土師器	口径:(7.6)	外面:指頭圧痕   内面:指頭圧痕	粒多量に混	製 製	外面:淡灰橙色 内面:淡橙色	
	D9Gr	製塩土器	器高:不明 底径:不明	底部:不明	入		下1曲.恢复已	
	CDOO	1-1 T-1/2	口径:不明	外面:施釉	密	良	外面:灰色	・器壁と内面見込の
-7	SD20 D8Gr	白磁	器高:不明	内面:施釉	TÚ	R	内面:淡青白色	間に界線
	Dogi	19/2	底径:(6.2)	底部:施釉			TIM. RHIC	Injucy  Miss
- 8	SD20	<b>瓷器系陶器</b>	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	良	外面:褐色	・外面に灰被る
- 0	D9Gr	无	器高:不明	内面:ナデ	粒混入	IR.	内面:淡茶色	/ PIMICI/CIX IX
	Dagi	JEG.	底径:不明	底部:不明	43.1107		TIM: 100 K   1	·
<u> </u>	SD20	在地土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:淡橙色	<ul><li>・内面に擂目</li></ul>
-9	E7Gr	擂鉢	器高:不明	内面:ナデ	粒少量混	+/\	内面:橙灰色	1.1四4~1用口
	15 ( (1)	110 154	底径:不明	底部:不明	12/ 21/1		, ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
-10	SD20	在地土器	口径:不明	外面:ハケ目、ナデ	1mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	・内面に擂目
10	B10Gr	擂鉢	器高:不明	内面:ナデ	粒混入	, , , , ,	内面:褐色	1 4 mg - 4 km km
	21001	4100 -1	底径:不明	底部:不明				
-11	SD20	肥前系陶器	口径:不明	外面:施釉	密	良	施釉:乳茶色	<ul><li>・内面見込に砂目積</li></ul>
11	E8Gr	<b>加州</b> 和	器高:不明	内面:施釉	1		露胎:暗赤褐色 あり	みの痕跡
	13001	70	底径:4.0	底部:露胎			(回転糸切)	
-12	SD20	京焼風陶器	口径:不明	外面:不明	密	やや軟	外面:淡黄色	・施釉部には貫入が
14		ストルし/エピ門 甘酢	器高:不明	内面:施釉	, iii	1 177	内面:黄白色	入る。
	D8Gr	l .	添高. / 1144	[/1]   H   A   A   A   A   A   A   A   A   A	1			1 人る。

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎土	焼 成	色 調	備考
141 – 13	SD20	肥前系磁器 染付蓋	口径:(9.9) 器高:不明	外面:施釉 内面:施釉	密	良	黄灰色	・口縁部端部露胎 ・外面に染付
- 14	SD20	陶器	口径:不明	外面:回転ナデ、回転ヘラ	密	良	外面:暗赤褐色	
	D8Gr	擂鉢	器高:不明	内面:擂目			内面:赤褐色	
			底径:不明	底部:不明				
143 - 1	SD21	須恵器	口径:(9.5)	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	
	E7Gr	坏身	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-2	SD21	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	
	E7Gr	坏身	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
	an or	/E-+ 00	底径:不明	底部:不明	SPE SPE	<del>-114.</del>	り面・井口名	<ul><li>・口縁部に1条の沈</li></ul>
-3	SD21	須恵器	口径:不明 器高:不明	外面:回転ナデ	密	軟	外面:黄灰色 内面:灰色	線
	D9Gr	甕	高高.不明 底径:不明	内面:不明   底部:不明			下1曲.灰色	NOS.
-4	SD21	須恵器	口径:不明	外面:ナデ	密	良	外面:暗褐灰色	
-4	C10Gr	· 須芯品	器高:不明	内面:青海波、ナデ	Ιτη	IX.	内面:褐灰色	
	Clodi	.84	底径:不明	底部:不明				
-5	SD21	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	 良	外面:暗褐色	
	E7Gr	鉄鉢形?	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-6	SD21	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	・底部に高台貼付
	C10Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ			(一部暗褐色ほか)	・器壁と内面見込の
			底径:不明	底部:回転ナデ			内面:青灰色	間に界線
-7	SD21	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	軟	外面:暗褐色	・底部に高台貼付
	E7Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ			(高台内暗黄灰色)	
			底径:不明	底部:回転ナデ			内面:暗黄灰色	
-8	SD21	瓷器系陶器	口径:不明	外面:ヘラケズリ、ナデ	密	良	外面:暗茶色	・肩部外面に灰被る
	D8Gr	甕	器高:不明	内面:指頭圧痕、ナデ			(肩部灰色)	
			底径:不明	底部:不明			内面:暗褐色	1-1
-9	SD21	肥前系磁器	口径:不明	外面:施釉	密	良	淡青白色 染付碗	・外面に染付
	D9Gr		器高:不明 底径:不明	底部:不明			米月地	
144 — 1	CD 20	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	やや軟	外面:暗褐色	・口縁部外面にスス
144 — 1	C9Gr	弥生上帝   甕	器高:不明	内面:ナデ	粒混入	1 1 47	(一部淡赤褐色)	付着
	Cadi	<u>≯</u> u	底径:不明	11111.//	13.1007		内面:淡赤褐色	1476
-2	SD29	須恵器	口径:(12.0)	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	
	C9Gr	坏身	器高:不明	内面:回転ナデ			(一部褐灰色)	
				底部:回転へラ切り?			内面:青灰色	
-3	SD 29	須恵器	口径:不明	外面:不明	密	良	青灰色	・底部に高台貼付
	C9Gr		器高:不明	内面:ナデ				
			底径:(9.6)	底部:回転ナデ				
- 4	SD 29	土師質土器	口径:不明	外面:不明	1mm未満の砂	やや軟	暗褐色	
	C9Gr	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	粒少量混入			
			底径:不明	底部:不明				
-5	SD29	陶器	口径:不明	外面:施釉	密	良	施釉:暗緑色	・底部外面釉ハギ
	C9Gr		器高:不明	内面:露胎(回転ナデ)			露胎:淡茶色明	
			底径:不明	底部:露胎	da		黄灰色	五亿万万大城市
147 - 1	SE01	須恵器	口径:不明	外面:平行タタキ	密	良	外面:褐灰色	・平行タタキ幅広
	下層	甕	器高:不明	内面:青海波			内面:青灰色	
	CEOI	上作工程工工口	底径:不明	底部:不明	1 mm 土港の	# # # * # * * * * * * * * * * * * * * *	以而· 応幸塔な	
-2	SE01 下層	土師質土器	口径:不明器高:不明	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	1mm 未満の砂粒混入	やや軟	外面:暗黄橙色内面:橙灰色	
		1 3/1	1 667同, 179月	1 T THE • PEL PLA 7 7	P2 12 (15 /\	1		1

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	
147 – 3	SE 01	土師質土器	口径:不明	外面:不明	1mm未満の砂	やや軟	橙色	
	下層	坏または小皿	器高:不明	内面:回転ナデ	粒混入			
			底径: (4.8)	底部:回転糸切				
149-1	A2Gr	土師器	口径:不明	外面:ヘラケズリ、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡黄橙色	・底部に円盤充填
	第2層	高坏	器高:不明	内面:指頭圧痕、ナデ	粒やや多く混		内面:明黄灰色	
			底径:不明	底部:不明	入			
- 2	第2層	土師器	口径:不明	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	外面:黄橙色	・外面にタガ
		円筒埴輪	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:橙色	
			底径:不明	底部:不明				
-3	E6Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ、指頭圧痕	密	良	青灰色	·子壷最大径(7.6)
	第2層	子持壺	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
-4	D6Gr	須恵器蓋	口径:(13.8)	外面:回転ナデ	密	良	外面:褐灰色、	・外面に3条の沈線
	第2層		器高:不明	内面:回転ナデ			暗褐色	
							内面:褐灰色	
-5	G5Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	・頸部外面に波状文
	第2層	(はそう)	器高:不明	内面:回転ナデ、ナデ			(一部暗褐色)	及び1条の沈線
			底径:不明	底部:不明			内面:青灰色	·頸径(4.2)
- 6	G4Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:青灰色	・体部中程に穿孔
	第2層	(はそう)	器高:不明	内面:回転ナデ			(一部暗褐色)	
			底径:(3.2)	底部:回転ヘラ			内面:青灰色	
-7	G5Gr	須恵器	口径:(15.8)	外面:ナデ	密	軟	青灰色	
	第2層	甕	器高:不明	内面:ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
- 8	E6Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	・肩部外面に2条の
	第2層	長頸瓶	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	稜線
			底径:不明	底部:不明				
<b>-</b> 9	C 14 Gr	須恵器	口径:(14.6)	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗褐灰色	
	第2層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:褐灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-10	F15Gr	須恵器	口径:(12.2)	外面:回転ナデ	密	良	外面:褐灰色	・底部に高台貼付
	第2層	坏	器高:4.7	内面:回転ナデ			内面:青灰色	・底部にヘラ状工具
			底径:(8.4)	底部:ナデ				痕
-11	G15Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	やや軟	灰白色	
	第2層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:(6.9)	底部:回転糸切				
-12	H4Gr	白磁	口径:不明	外面:施釉	密	良	施釉:黄灰色	・底部削り出し高台
	第2層	碗	器高:不明	内面:施釉			露胎:灰色	・底部外面釉ハギ
			底径:(6.1)	底部:露胎				
-13	H5Gr	師質土器	土口径:不明	外面:回転ナデ	1mm未満の砂	やや軟	外面:淡橙色	-
	第2層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	粒少量混 入		内面:淡黄橙色	
			底径:不明	底部:不明				
- 14	F6Gr	瀬戸焼	口径:(10.6)	外面:施釉	密	良	施釉:暗黄緑色	・内面見込及び底部を釉ハギ
	第2層	灰釉折縁皿	器高:2.7	内面:施釉			露胎:明黄灰色	· 菊花皿
			底径:(6.5)	底部:露胎			暗茶色	- 貫入が入る
- 15	G4Gr	備前焼	口径:(30.9)	外面:指頭圧痕、ヘラケズリ、ナデ	密	良	暗赤褐色	・内面に1単位8条
	第2層	擂鉢	器高:不明	内面:ナデ			(口縁部外面褐	の擂目
			底径:不明	底部:不明			色)	·乗岡中世5期a
-16	D6Gr	備前焼	口径:不明	外面:回転ナデ、ナデ	密	良	外面:暗赤褐色	
	第2層	壺	器高:不明	内面:回転ナデ			(一部暗褐色)	
			底径:不明	内面:暗青灰色				
-17	H3Gr	白磁	口径:(10.8)	外面:施釉	密	良	乳黄白色	・底部削り出し高台
	第2層		器高:2.8	内面:施釉				
1			底径:(4.0)	底部:露胎	<u></u>			

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備考
144 – 8	E7Gr	肥前系陶器	口径:不明	外面:露胎	密	良	施釉:暗黄緑色	・底部削り出し高台
	第2層		器高:不明	内面:施釉			露胎:橙灰色	<ul><li>・内面見込及び高台:</li></ul>
			底径:(5.4)	底部:露胎				付に胎土目積の痕跡
-19	D6Gr	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	軟	外面:橙色	<ul><li>・外面器壁及び</li></ul>
	第2層		器高:不明	内面:回転ナデ			内面:やや暗い	部の界線が明確
			底径:不明	底部:回転糸切			橙色	
-20	D9Gr	   陶胎染付	口径:不明	外面:施釉	密	良	外面:明黄灰色	·高台畳付露胎
	第2層	埦	器高:不明	内面:施釉			内面:黄緑色	·高台見込を深く抉る
		'-	底径:(4.8)	底部:施釉				・外面に染付
-21	D9Gr	陶器	口径:不明		密	やや軟	暗赤褐色	
	第2層	捏鉢か擂鉢	器高:不明	内面:回転ナデ			(口縁部外面赤	
			底径:不明	底部:不明			褐色)	
-22	D9Gr	布志名焼	口径:不明	外面:施釉	密	良	施釉:乳緑色	
	第2層	火鉢	器高:不明	内面:露胎(回転ナデ)			淡乳緑色	
	,,, <u> </u>	1	底径:不明	底部:不明			露胎:黄橙色	
152-1	E3Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	3mm未満の砂	軟	外面:淡灰橙色	  ・□縁部外面に刻
102 1	第3層	760.2.111	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混	170	内面:明黄灰色	突帯
	7,01		底径:不明	底部:不明	入		「一」	7 III
<del>- 2</del>	E4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	外面:褐色	
2	第3層	冲人上的	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混	事人	次	
	2707官		底径:不明	底部:不明	私多里に庇		四川田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	
-3	C6Gr	縄文土器	口径:不明		ス 3mm以下の砂	#4-	bl 東京・日文 +98. ク	
-3	第3層	縄又工奇	口住,不明   器高:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ 内面:ヘラケズリ		軟	外面:暗橙色	
	<b>売</b> 3/暦		高高.不明 底径:不明	底部:不明	粒混入		内面:灰橙色	
4	DOC.	36-4L-1, B0			o NITOTA	#1.	E 120 W	■ 49 H 〒1 - 半 #
- 4	E3Gr	弥生土器	口径:(27.2)	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	灰橙色	・肩部外面に数条
	第3層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		一部淡橙色、	凹線
-	Do G	7/.4/ 1 00	底径:不明	底部:不明	入		黒褐色)	
-5	E3Gr	弥生土器	口径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ	3mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	・体部に11条の凹線
	第3層	蹇	器高:不明	内面:ヘラケズリ、ナデ	粒多量に混		(一部橙色)	・口縁部端部に刻目  
	0.60	76-11-11-00	底径:不明	底部:不明	入 0 N = 57	ator.	内面:灰橙色	//
-6	C6Gr	弥生土器	口径:(23.4)	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:黄灰色	・外面に凹線及び
	第3層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:淡黄橙色	突文
	000	7/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/ 1/	底径:不明	底部:不明	入			
<b>-</b> 7	C8Gr	弥生土器	口径:(22.1)	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	灰橙色	
	第3層	甕	器高:不明	内面:ナデ底部:不明	粒多量に混		(外面一部暗橙	
			底径:不明		入		灰色)	
-8	D2Gr	弥生土器	口径:(13.0)	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:黄橙色	・口縁部外面に4多
	第3層	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ、ナデ	粒混入		内面:橙色	の擬凹線
			底径:不明	底部:不明			(体部一部淡橙色)	
-9	B2Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	1mm以下の砂	やや軟	淡赤褐色	
	第3層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		(一部黄灰色)	
			底径:不明	底部:不明				
-10	H3Gr	土師器	口径:不明	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	外面:黄橙色	・体部外面に円形式
	第3層	円筒埴輪	器高:不明	内面:指頭圧痕	粒混入		内面:橙色	かし及びタガ
			底径:不明	底部:不明				
- 11	C3Gr	土師器	口径:(14.8)	外面:ナデ	3㎜以下の砂	軟	明灰橙色	
	第3層	甕	器高:不明	内面:不明	粒多量に混			
			底径:不明	底部:不明	入			
-12	G3Gr	須恵器	口径:(13.0)	外面:回転ナデ	密	良	青灰色	
	第3層	坏身	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:不明				
-13	G4Gr	土師器	口径:不明	外面:ナデ	1mm以下の	軟	外面:黄橙色	・須恵器の模倣?
1		蓋	器高:不明	   内面:ナデ	砂粒混入	I	内面:灰色	

<b>挿図番号</b>	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備考
152 - 14	C2Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ヘラ、ナデ	2mm以下の砂	良	外面:青灰色	・底部に高台貼付
	第3層	鉢	器高:不明	内面:回転ナデ	粒混入		内面:灰褐色	<ul><li>・内面見込に自然釉</li></ul>
			底径:(12.5)	底部:ナデ				付着
-15	A1Gr	土師質土器	口径:(16.5)	外面:指頭圧痕、ナデ	3mm以下の砂	軟	外面:暗褐色	
	第3層	坏	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:褐色	
			底径:不明				底部:不明	
-16	C6Gr	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	外面:暗青灰色	・底部に高台
	第3層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ			内面:青灰色	
			底径:(9.8)	底部:ナデ				
- 17	B2Gr	須恵器	口径:不明	外面:平行タタキ	密	良	外面:暗褐色	
	第3層	甕	器高:不明	内面:車輪文			内面:青灰色	
			底径:不明	底部:不明				
- 18	B6Gr	土師質土器	口径:不明	外面:不明	1mm以下の砂	軟	橙色	・底部に高台貼付
	第3層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	粒少量混入		(高台内黄灰色)	
			底径:(6.5)	底部:回転ナデ				
- 19	D15Gr	緑釉陶器	口径:不明	外面:施釉	密	良	暗緑色	
	第3層		器高:不明	内面:施釉				
			底径:不明	底部:不明				
153-1	H4Gr	白磁	口径:不明	外面:施釉	密	良	黄灰色	
	第3層	碗	器高:不明	内面:施釉				
			底径:不明	底部:不明				
-2	C8Gr	在地土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:暗淡橙色	
	第3層	捏鉢か擂鉢	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		(底部橙色)	
			底径:(10.0)		入		内面:淡橙色	
-3	D15Gr	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	0.5mm程度の	やや軟	外面:黄褐色	
	第3層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	砂粒少量混		内面:橙色	
			底径:(6.8)	底部:不明	入		(一部黄褐色)	
-4	B2Gr	瓦質土器	口径:不明	外面:ナデ	密	軟	外面:黒褐色	・内面に擂目
	第3層	擂鉢	器高:不明	内面:ナデ			内面:黄灰色	
			底径:不明					
-5	B6Gr	土師質土器	口径:不明	外面:回転ナデ	1mm以下の砂	やや軟	淡橙色	
	第3層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ	粒少量混入			
			底径:(5.7)	底部:不明				
-6	A1Gr	土師質土器	口径:(14.8)	外面:回転ナデ	密	軟	淡橙色	
	第3層	坏	器高:不明	内面:回転ナデ				
			底径:不明	底部:糸切痕				
-7	H4Gr	青花	口径:不明	外面:施釉	密	良	灰色	・内外面に染付
	第3層	染付碗	器高:不明	内面:施釉				
			底径:不明	底部:不明				
155 — 1	C5Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2㎜未満の砂	軟	外面:暗橙灰色	・外面に沈線
	第4~5層		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		(一部暗褐色)	
			底径:不明	底部:不明	入		内面:暗茶色	
- 2	B10Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	1mm未満の砂	軟	外面:灰橙色	・口縁部に穿孔
	第4~5層		器高:不明	内面:ナデ	粒少量混入		内面:橙灰色	
			底径:不明	底部:不明				
-3	F3Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	軟	外面:明黄灰色	・口唇部外面に刻
	第4~5層		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:暗灰色	突带
			底径:不明	底部:不明	入			
- 4	B3Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:黄灰色	・口縁部外面に刻
	第4~5層		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒混入		内面:暗灰色	突带
			底径:不明	底部:不明				
<u>-5</u>	E5Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:淡赤褐色	・底部に高台貼付
	第4~5層		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混	.	内面:黄灰色	
			底径:(10.7)		入		(一部暗褐色)	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
155-6	B9Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	3mm以下の砂	やや軟	外面:黄橙色	<ul><li>・口唇部外面に刻目突帯</li></ul>
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ、ナデ	粒多量に混		内面:淡橙色	・突帯上部に1条の凹線
			底径:不明	底部:不明	入			
-7	F4Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ヘラケズリ、ナデ	粒多量に混		内面:灰橙色	
			底径:不明	底部:不明	入		(一部暗橙色橙灰色)	
- 8	B3Gr	弥生土器	口径:(34.2)	外面:ナデ	3mm以下の砂	軟	淡橙色	・口縁部端部に1第
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混			の凹線
			底径:不明	底部:不明	入			
-9	B7Gr	弥生土器甕	口径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:暗橙色	
-	第4~5層		器高:不明	内面:ハケ目、指頭圧痕、ナデ	粒混入		(一部橙色)	
			底径:不明	底部:不明			内面:淡橙色	
-10	A3Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	・外面に各2条の
10	第4~5層	蓋	器高:不明	   内面:ナデ	粒多量に混		(一部灰橙色)	<ul><li>・外面に各2条のイラ描き沈線2本</li><li>・外面に松葉状のインター</li></ul>
	71		底径:不明		入		内面:灰橙色	ラ描き沈線 ・天井部に摘み
-11	D3Gr	弥生土器	口径:(18.9)	外面:ハケ目、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	暗淡橙色	
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		(一部暗褐色)	
	No I OVE	LAG.	底径:不明	底部:不明	入			
-12	C3Gr	- 弥生土器	口径:(17.8)	外面:指頭圧痕、ナデ	4mm以下の砂	やや軟	外面:暗灰橙色	<ul><li>・口縁部外面に粘力</li></ul>
12	第4~5層	鉢	器高:不明	内面:ナデ	粒混入		(一部褐色)	塊
	N11 0/8	PT	底径:不明	底部:不明	内面:橙灰色			
-13	C7Gr	弥生土器	口径:不明	口径:不明 外面:ナデ	3mm以下の	やや軟	外面:淡橙色	<ul><li>・体部外面に断面</li></ul>
- 13	第4~5層	赤	器高:不明	内面:ナデ	砂粒混入	1 1 420	内面:明黄灰色	角形の貼
	分4 · 3/官	52.	底径:不明	底部:不明	P2 125 1267 C		付突帯	<ul><li>・因幡・伯耆からの 搬入土器?</li></ul>
-14	G5Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:暗灰色	200 (22)
- 14	G5Gr 第4∼5層		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混	47	内面:明黄灰色	
	免4.~3周	⊅C	底径:不明	底部:不明	入		1111.7147.1	
1.5	A 9.C	弥生土器	口径:不明	外面:ハケ目、ナデ	3mm以下の砂	やや軟	外面:明黄灰色	<ul><li>・肩部外面に3条の</li></ul>
- 15	A2Gr 第4~5層		器高:不明	内面:指頭圧痕、ナデ	粒多量に混	1 1 1 1 1 1 1	(一部暗褐色)	凹線
	舟4~3階		底径:不明	底部:不明	入		内面:黄灰色	
1.0	Dac	34-44- 1. RD			3mm以下の砂	軟	外面:暗橙色	<ul><li>・体部上側に2条の</li></ul>
- 16	E3Gr	弥生土器	口径:(17.9) 器高:不明	外面:ナデ   内面:不明	粒多量に混	**\	(一部暗褐色)	突帯及び列点文
	第4~5層	甕	底径:不明	底部:不明	社 夕 里 に 庇		内面:暗黄橙色	・口縁部端部外側に刻目
	TT 4 C	36- tL   I   RP			2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	Holy the Mark Art 1
-17	H4Gr	弥生土器	口径:不明器高:不明	外面:ナデ 内面:不明	粒多量に混	17.17.47	内面:黄橙色	
	第4~5層	甕	商局.不明 底径:(9.4)	[四][1][1][1][1][1][1][1][1][1][1][1][1][1]	入		下面,英位已	
10	DEC	36-th 1 BP		外面:ハケ目	3mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	
-18	B7Gr	弥生土器	口径:不明器高:不明	内面:不明	粒多量に混	14.7.47	内面:黄灰色	
	第4~5層	甕	○	四面.小剪	入		71圃.黄灰凸	
10	D.10	34- tl. 1 BB		外面:ヘラミガキ、指頭圧痕	3mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	・断面及び内面に
-19	B4Gr	弥生土器	口径:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混	-V-V-#V	内面:黄灰色	土の接合痕
	第4~5層	甕	器高:不明 底径:(7.3)	四面・ベンケスケ	松夕里に此			工學展日級
	Lat. 1. Net	7/. / 1 88		月五・ハトロートラ		en en itale	外面:橙灰色	・肩部外面に4条の凹線
156 - 1	排水溝	弥生土器	口径:(23.0)	外面:ハケ目、ナデ	3mm以下の砂 数ターに調	やや軟		<ul><li>・月部外面に4条の日本</li><li>・口縁部端部に刻目プ</li></ul>
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ハケ目、ナデ	粒多量に混   入		内面:暗橙灰色	- [1/\sqrtameth=\sqrta
		7/ -/ 1 00	底径:不明	底部:不明		do do #4	bl 元·冰松久	りまロ急並と <del>た</del>
-2	B9Gr	弥生土器	口径:(20.9)	外面:ハケ目、ナデ	3mm以下の砂 数名 早に 泪	やや軟	外面:淡橙色	・外面口縁部と体
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ハケ目、ナデ	粒多量に混		内面:灰橙色	の間に1条の凹線
			底径:不明	底部:不明	入 D NITOTH	A- A-41	(一部暗橙色橙灰色)	H-4844 (00 E)
-3	F4Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	3mm以下の砂	やや軟	褐灰色	·体部径(22.5)
	第4~5層	壺	器高:不明	内面:不明	粒混入		(一部暗褐色)	・肩部に斜格子が
			底径:不明	底部:不明		1	44.00	4条の凹線、羽状
-4	D3Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ハケ目	5mm以下の砂	やや軟	黄灰色	
	第4~5層	蹇	器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混		(一部暗褐色)	
			底径:8.0		入			

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備考
156-5	G5Gr	弥生土器	口径:(18.3)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	淡黄橙色	・口縁部端部に3条
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒混入			の擬凹線 ・頸部断面に粘土の
			底径:不明	底部:不明				接合痕
-6	B8Gr	弥生土器	口径:(16.4)	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
	第4~5層	甕	器高:不明	内面:ナデ	粒やや多く混		内面:淡黄橙色	
		-	底径:不明	底部:不明	入			
-7	B4Gr	土師器	口径:不明	外面:ハケ目、ヘラミガキ	2mm以下の砂	やや軟	外面:明黄灰色	<ul><li>内外面に赤彩</li></ul>
	第4~5層	高坏	器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:淡灰橙色	
			底径:不明	底部:不明	入			
-8	排水溝	須恵器	口径:5.5	外面:回転ナデ	密	良	褐灰色	
	第4~5層	浄瓶	器高:不明	内面:回転ナデ、ナデ			(一部暗褐色)	
			底径:不明	底部:不明				
-9	H4Gr	瀬戸焼	口径:不明	外面:施釉	密	良	外面:橙灰色	・内面に卸目
	第4~5層	卸皿	器高:不明	内面:卸目			内面:明黄灰色	・底部に漆付着
			底径:(10.3)	底部:露胎(回転糸切)				
160-1	排土	須恵器	口径:不明	外面:回転ナデ	密	良	青灰色	
		高坏	器高:不明	内面:ナデ			(一部暗青灰色)	
			底径:(5.9)	底部:回転ナデ				
- 2	E13Gr	土師器	口径:(6.6)	外面:ナデ	密	やや軟	外面:橙灰色	
	表土	製塩土器	器高:不明	内面:指頭圧痕、ナデ			内面:淡橙色	
			底径:不明	底部:不明				
-3	排水溝	在地土器	口径:(24.2)	外面:ナデ	密	軟	黄灰色	・内面に擂目
		擂鉢	器高:不明	内面:ナデ			(外面一部淡赤褐色)	
			底径:不明	底部:不明	Abbandan			
-4	C15Gr	青磁皿	口径:(12.6)	外面:施釉	密	良	乳緑色	・2次被熱の可能性
	表土		器高:不明	内面:施釉				あり
			底径:不明	底部:不明				
164 – 1	C4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	3mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	
	第6層		器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒多量に混		内面:灰褐色	
			底径:不明	底部:不明	入		(一部淡橙色橙色)	
-2	C8Gr	縄文土器	口径:不明	外面:不明	2mm以下の砂	軟	外面:黄橙色	·大突起深鉢形土
	第6層		器高:不明	内面:不明	粒混入		内面:黄褐色	器
			底径:不明	底部:不明			(一部橙色)	
-3	E3Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	2mm以下の砂	やや軟	外面:暗黄灰色	・穿孔あり
	第6層		器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒混入		内面:黄灰色	
			底径:不明	底部:不明				
- 4	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	3mm以下の砂	やや軟	外面:黄灰色	
	第6層		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		(一部橙灰色)	
			底径:不明	底部:不明	入		内面:灰黄橙色	
-5	C9Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	4㎜以下の砂	やや軟	外面:赤褐色	
	第6層		器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:淡橙色	
			底径:8.8		入			
162-1	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	・口縁部外面に突帯
	砂層下ピット		器高:不明	内面:ナデ	粒混入		内面:灰橙色	貼付
			底径:不明	底部:不明				
-2	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	2mm未満の砂	やや軟	外面:橙色	
	6層下ピット		器高:不明	内面:ヘラケズリ	粒混入		内面:暗黄橙色	
			底径:不明	底部:不明				
- 3	C4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	・把手に穿孔
	第7層	双耳壺	器高:不明	内面:ナデ	粒少量混入		内面:明灰橙色	·五明田式
			底径:不明	底部:不明				
- 4	D3Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	
	第7層		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:暗黄色	
		1	底径:不明	底部:不明	入		(一部淡黄色)	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼 成	色 調	備考
162-6		縄文土器	口径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	
	F5Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混			
			底径:(8.8)	底部:不明	入			
163-1		縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	やや軟	外面:黄橙色	・断面に粘土の接
	F4Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:暗黄橙色	合痕
			底径:不明	底部:不明	入			
- 2		縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	やや軟	外面:黄灰色	
	D3Gr		器高:不明	内面:ヘラミガキ	粒に混入		内面:橙灰色	
			底径:不明	底部:不明				
- 3		縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	1mm以下の砂	軟	外面:淡橙色	・断面に粘土の接
	E3Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:黒褐色	合痕
			底径:不明	底部:不明	入			
- 4		縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	2mm以下の砂	やや軟	外面:暗橙灰色	
	F4Gr		器高:不明	内面:ヘラミガキ	粒多量に混		内面:褐色	
			底径:不明	底部:不明	入		(口縁部橙灰色)	
- 5		縄文土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ、ナデ	2mm以下の砂	やや軟	黄灰色	・穿孔あり
	D3Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		(口縁部暗褐色)	
			底径:不明	底部:不明	入			
- 6		縄文土器	口径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ	4mm以下の砂	やや軟	外面:明黄灰色	
	D3Gr		器高:不明	内面:不明	粒多量に混		(底面灰橙色)	
			底径:(8.4)		入		内面:褐色	
<b>-</b> 7		縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	·五明田式
	C9Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		(一部橙色)	
			底径:不明	底部:不明	入		内面:明黄灰色	
- 8		縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	3mm以下の砂	やや軟	外面:灰橙色	·底部高台
	C8Gr		器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		(一部赤褐色)	
			底径:(12.1)	底部:2枚貝条痕	入		内面:暗灰色	
- 9		縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	3m以下の砂	やや軟	外面:橙灰色	·五明田式
	C8Gr		器高:不明	内面:ヘラミガキ	粒多量に混		内面:暗黄橙色	
			底径:不明	底部:不明	入			
- 10		縄文土器	口径:不明	外面:不明	4mm以下の砂	軟	外面:淡橙色	
	C8Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:暗橙灰色	
			底径:10.2		入			
- 11		縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	
	C7Gr		器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:淡黄橙色	
			底径:不明	底部:不明	入			
- 1		縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	2mm以下の砂	やや軟	外面:淡橙色	・端部に突起物
			器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒混入		内面:橙色	· 五明田式
			底径:不明	底部:不明				
- 2	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ナデ	3mm以下の砂	やや軟	外面:橙色	
			器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:黄橙色	
			底径:不明	底部:不明	入		(一部暗褐色褐色)	
- 3	C9Gr	縄文土器	口径:不明	外面:磨消縄文	2mm以下の砂	軟	外面:橙色	
			器高:不明	内面:不明	粒多量に混		(一部明黄灰色)	
			底径:不明	底部:不明	入		内面:明黄灰色	
- 4	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:指頭圧痕、ナデ	2mm以下の砂	軟	外面:淡橙色	・底部高台
			器高:不明	内面:2枚貝条痕	粒多量に混		内面:暗灰色	・断面に粘土の接
			底径:(11.7)		入		(一部暗褐色)	合痕
<del>-</del> 5	D4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:ヘラミガキ	3mm以下の砂	やや軟	外面:暗橙灰色	·底部高台
			器高:不明	内面:ナデ	粒多量に混		内面:灰橙色	
			底径:8.0		入		(一部暗褐色)	
- 6	C4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕?	2mm以下の砂	やや軟	灰橙色	
			器高:不明	内面:不明	粒多量に混			
			底径:不明	底部:不明	入			

挿図番号	出土地点	種別	法 量(cm)	手法の特徴	胎 土	焼成	色 調	備	考
164 - 7	D4Gr	弥生土器	口径:不明	外面:ハケ目、ナデ	1mm 以下の砂	やや軟	外面:黄橙色	·底部高台	
			器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:暗黄橙色		
			底径:(7.1)	底部:不明	入				
-8	D3Gr	弥生土器	口径:不明	外面:不明	2mm 以下の砂	軟	外面:黄灰色		
			器高:不明	内面:不明	粒多量に混		内面:明灰橙色		
			底径:3.6	底部:不明	入				
-9	D4Gr	弥生土器	口径:不明	外面:指頭圧痕	3mm 以下の砂	軟	黄褐色		
			器高:不明	内面:不明	粒に混入		一部橙色(外)		
			底径:8.4				一部褐色暗褐色(内)		
166-1	C4Gr	縄文土器	口径:不明	外面:2枚貝条痕	2mm 未満の砂	軟	灰橙色		
			器高:不明	内面:不明	粒混入		(一部黄橙色橙色)		
			底径:不明	底部:不明					

築山遺跡(Ⅱ区)遺物観察表2

		T		遺跡 (Ⅱ区)遺物観察表 2
挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	<b>備</b> 考
126 - 13	SD11	石製品	縦長:13.0	·重量330g
	F4Gr	斧	横幅:11.2	
			厚さ:1.9	
129 - 3	SD 19	石未製品	縦長:5.4	
	F3Gr	赤瑪瑙	横幅:3.2	
			厚さ:1.6	
132-8	SD 03	石製品	縦長:12.3	
		斧	横幅:8.5	
			厚さ:1.6	
134 – 5	SD 10	石未製品	縦長:2.6	
		赤瑪瑙	横幅:2.2	
			厚さ:0.4	
136 - 2	SX 01	石製品	横幅:25.5	
		五輪塔	高さ:16.8	
		水輪		
-3	SX 01	石製品	横幅:33.4	
		五輪塔	高さ:23.8	
142 - 1	SD20	石製品	横幅:30.1	
		宝(きょう)印塔	高さ:28.0	
		基礎		
143-6	SD 29	石未製品	縦長:6.8	
	C9Gr	青瑪瑙	横幅:5.5	
			厚さ:3.3	
149-23		土製品	残存長:4.0	・全面に多量の籾殻痕
	I4Gr		残存幅:5.6	
	第2層		厚さ:1.6	
-24		土製品	残存長:2.3	
	D5Gr	羽口	残存幅:5.4	
	第2層			
150-1		石製品	残存長:7.1	·重量370g
	A1Gr	砥石	横幅:6.5	・使用面3面
_	第2層	Ad any ser	厚さ:5.1	· ·
-2	7.00	鉄製品	縦長:5.7	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
	E8Gr	釘	横幅:0.5	
	第2層	AJ BULET	厚さ:0.5	A-TO-b
-3	DOC.	鉄製品	- 長性 東京・○ CE	······································
	E8Gr	釘	横幅:0.65	
	第2層	<b>工士和日</b>	厚さ:0.65	田田ブンせの)とでは
151 - 1	0.40	石未製品	縦長:2.8 	・黒曜石に酷似した石材
	G4Gr 第2層	黒曜石?	横幅:2.3	
	第2層		厚さ:1.2	· 岳旦 C · ·
-2	EGC.	石未製品	縦長:3.0 	·重量5g
	E6Gr 第2層	黒曜石	横幅:2.0 厚さ:1.4	
0	オロム/官	土制口		
-3	C14Gr	未製品水晶	縦長:3.0 横幅:2.0	
	614Gr 第2層	小田	懊幅.2.0   厚さ:1.4	
154 1	2012/6	<b>工土制</b> 口		-
154 — 1	C7C=	石未製品	縦長:3.9 	・暗紫色を呈する珪質な石
	C7Gr 第3層		横幅:2.4 厚さ:0.9	
0	知り信	工土制口	凝長:2.2	
-2	A 2 C =	石未製品		
	A2Gr 第3届	黒曜石	横幅:2.3	
	第3層	1	厚さ:1.6	

挿図番号	出土地点	種 別	法 量(cm)	備
157 – 1		石未製品	縦長:4.3	
	F5Gr	黒曜石	横幅:2.2	
	第4層		厚さ:1.1	
-2		石未製品	縦長:2.5	
-	C7Gr	黒曜石	横幅:2.1	
	第4層		厚さ:0.9	
-3		石製品	縦長:2.5	·安山岩
	B3Gr	斧	横幅:1.8	
	第4層		厚さ:0.3	
158-1		石製品	縦長:17.1	·重量550g
	B5Gr	斧	残存幅:11.9	·安山岩
	第4層		厚さ:2.7	
-2		石製品	縦長:15.7	·安山岩
	C3Gr	斧	横幅:10.6	
	第4層		厚さ:2.5	
-3		石製品	縦長:18.4	·重量550g
	B3Gr	斧	横幅:8.8	·安山岩
	第4層		厚さ:2.8	
-4		石製品	縦長:15.6	·重量550g
	B3Gr	斧	横幅:15.0	·安山岩
	第4層		厚さ:2.4	
-5		石製品	縦長:24.3	·重量1450g
	C3Gr	斧	横幅:19.5	·安山岩
	第4層		厚さ:3.9	
-6	出土地不明	石製品	縦長:12.6	·重量185g
		斧	横幅:8.4	·安山岩
			厚さ:1.7	
159-1		石製品	横幅:24.7	
	D10Gr	五輪塔	高さ:12.6	
		火輪		
-2		石製品	横幅:33.4	・肩部の工具痕
	G5Gr	五輪塔	高さ:24.6	
		水輪		
-3		石製品	縦長:16.6	·用途不明
	F7Gr		横幅:19.9	
			高さ:15.4	
162 – 5		土製品	残存長:4.7	・縄文土器片を加工
		円盤	残存幅:3.4	
	第7層		厚さ:1.0	
163 – 12		土製品	残存長:6.6	縄文土器片を加工
	C8Gr	円盤	残存幅:3.5	
	第7層		厚さ:1.1	
-13		土製品	縦長:6.8	・縄文土器片を加工
	C8Gr	円盤	横幅:6.7	
	第7層		厚さ:1.1	
165 - 1	D4Gr	石未製品	縦長:1.6	·重量2g
		黒曜石	横幅:2.1	
			高さ:0.9	

### 築山遺跡 I 区図 版



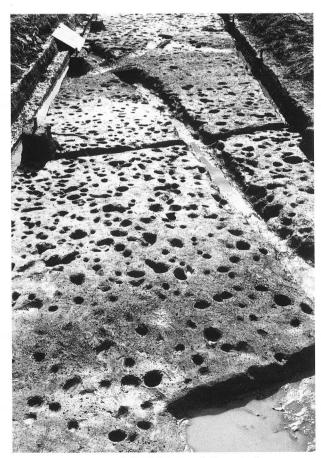
I-A区完堀状況(南より)



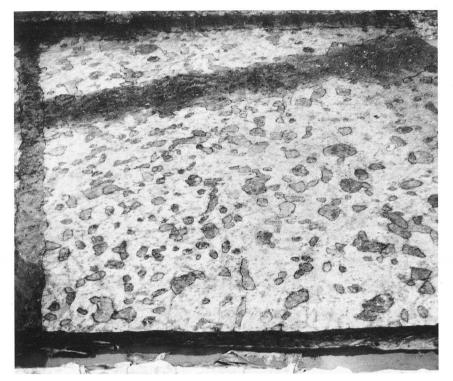
I-C区完堀状況1(北より)



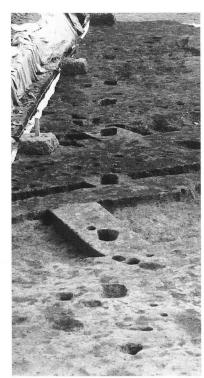
I-B区完堀状況(西より)



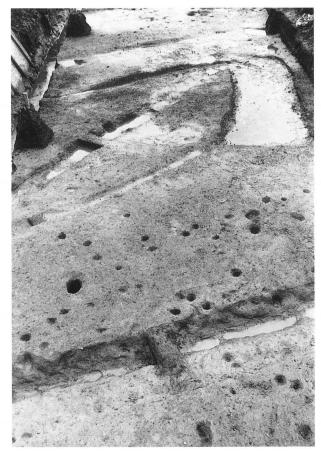
I-C区完堀状況2(北より)



SD23周辺小ピット群検出状況(東より)



SA01 (北より)



SD19~21(北より)



SD04・05 (西より)



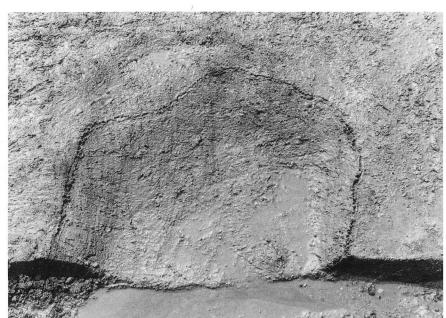
SD01 (東より)



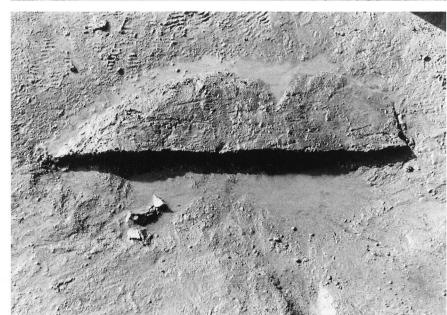
SD08~11(東より)



SD12~15(北より)



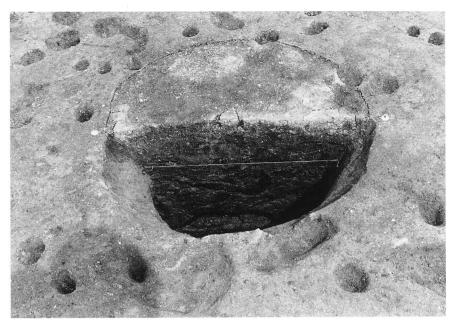
SK01



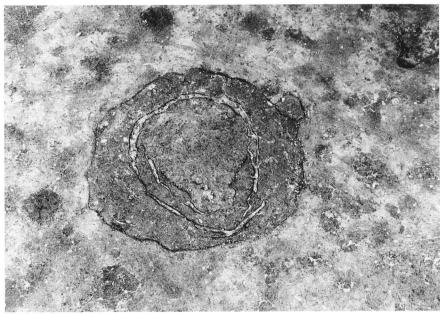
SK06



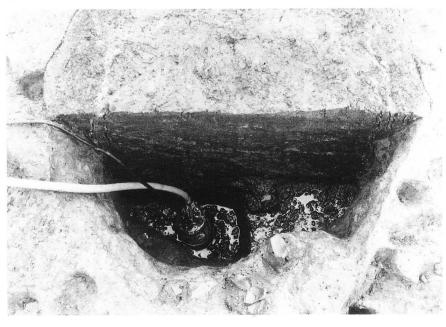
SK03



SK04



SK08-1



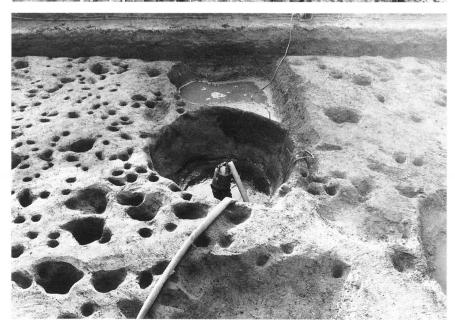
SK08-2



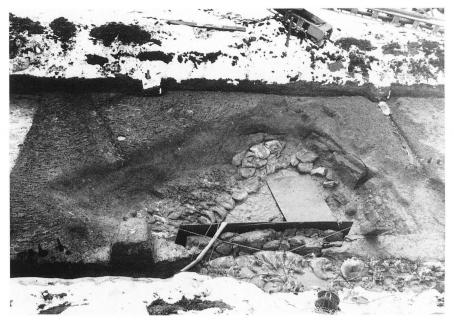
SK09



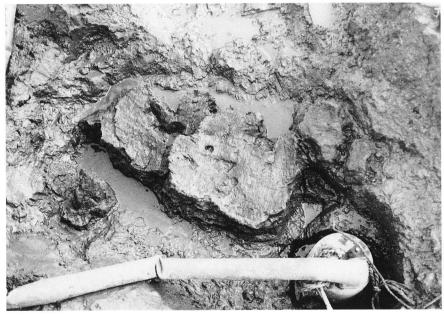
SK16



SK10~12



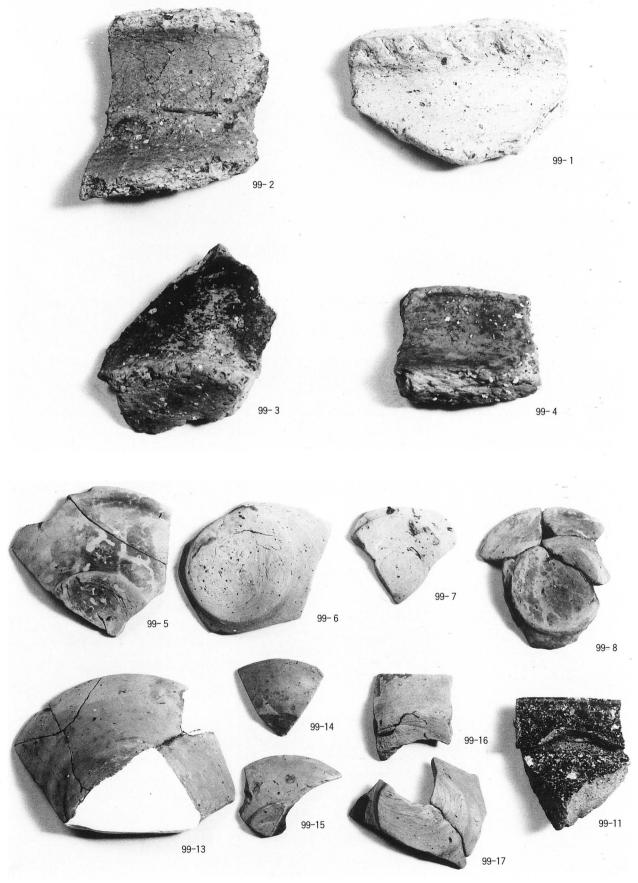
SX01



SXO1筵出土状況



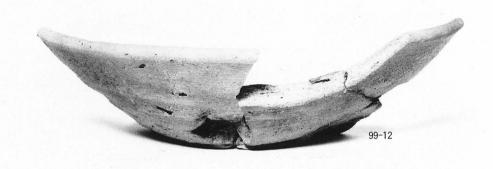
SXO1漆器出土状況



遺構内出土遺物1



SK08



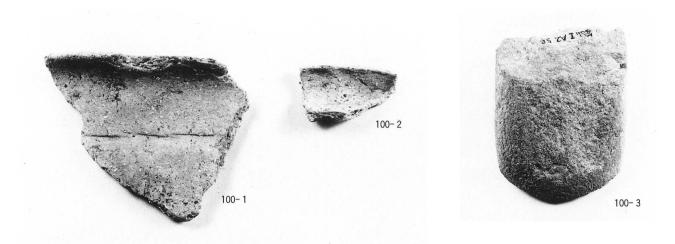
SK14



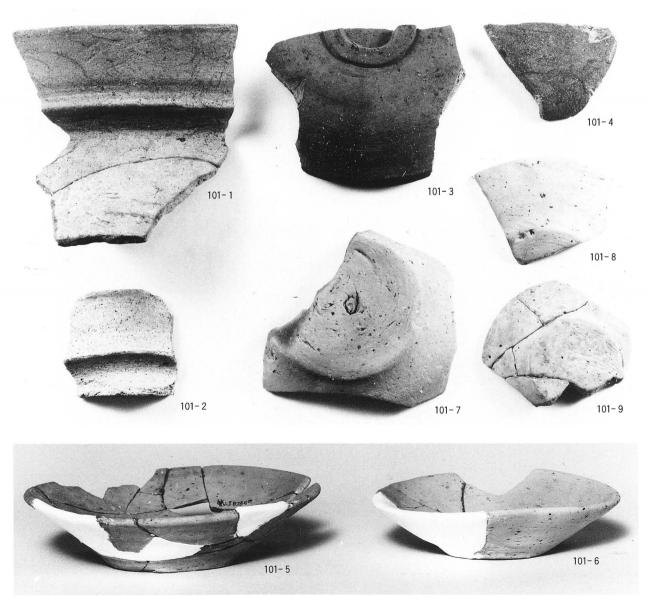
SX01



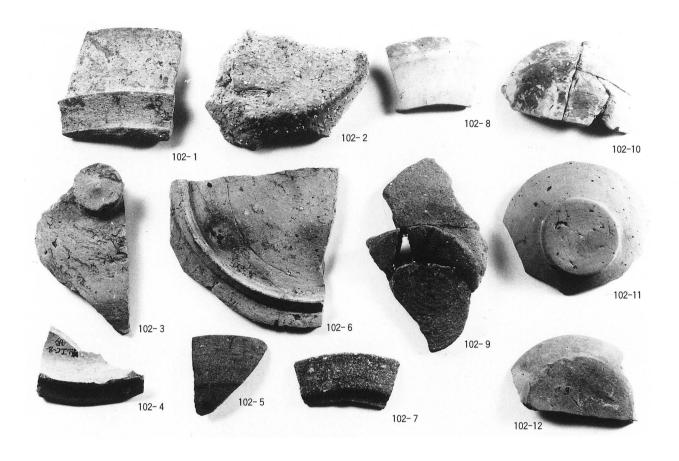
遺構内出土遺物2

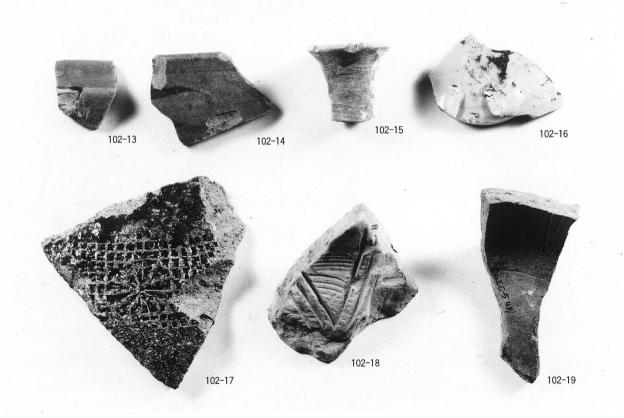


包含層5A層出土遺物



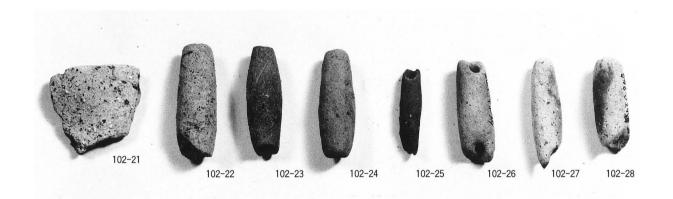
包含層5B~C層出土遺物

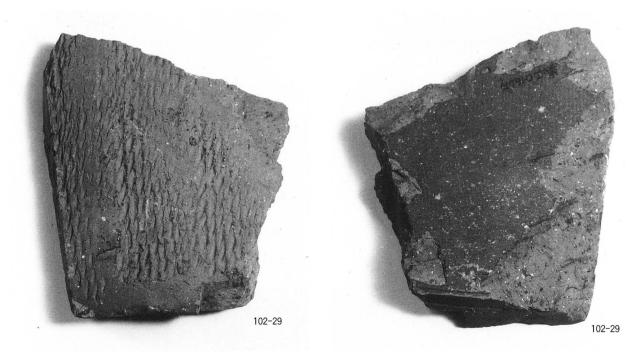




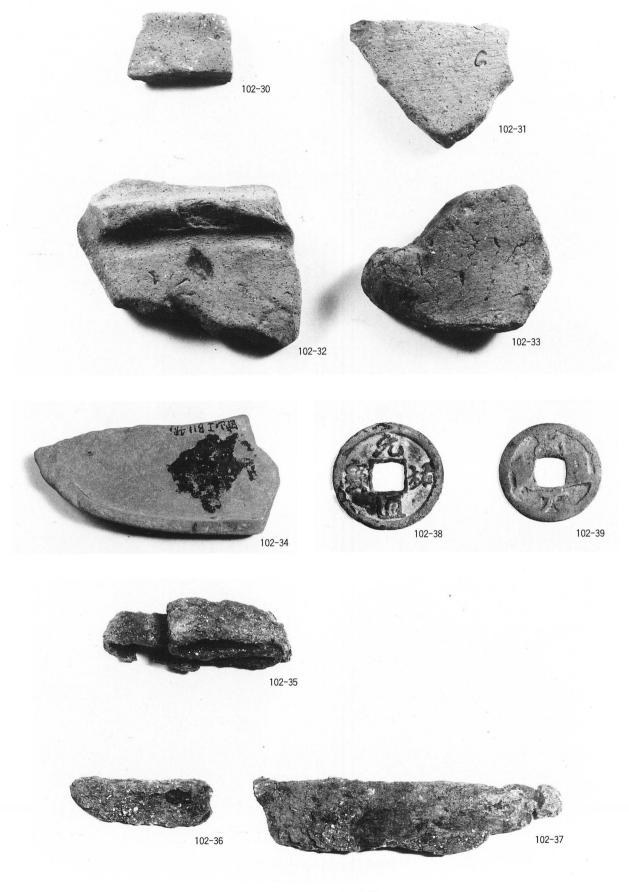
包含層4層出土遺物1







包含層4層出土遺物2



包含層4層出土遺物3

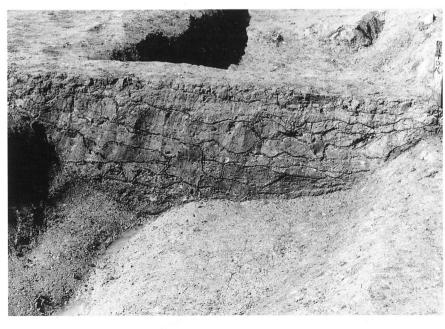
# 築山遺跡Ⅱ区 図 版



SD09遺構検出状況



SD09土層堆積状況 1



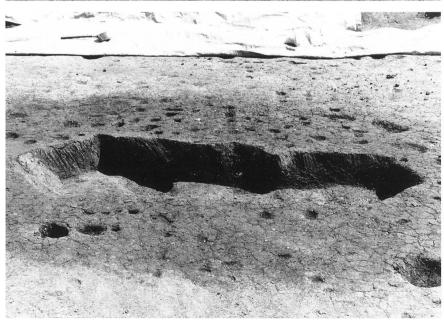
SD09土層堆積状況 2



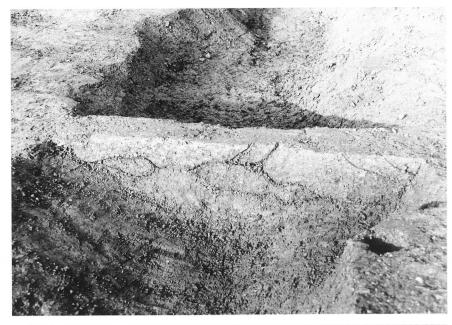
SDO9完掘状況



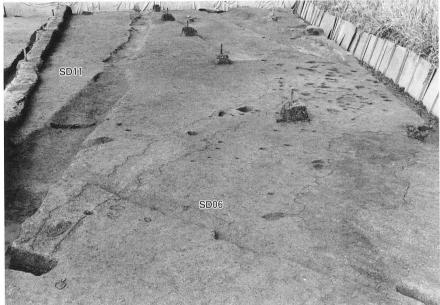
SKO2土層堆積状況



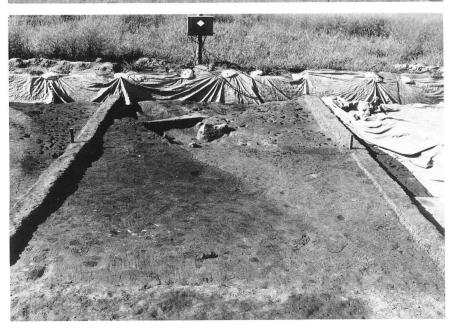
SKO2完掘状況



SD11土層堆積状況



SD06・SD11完掘状況



SD10



SX01



調査状況



調査区東側(南側から)



調査区東側(北西側から)



SKO9遺物出土状況 1



SKO9遺物出土状況 2